

広島市安全なまちづくりに関する
地域防犯活動団体アンケート調査
報 告 書

令和2年3月

広島市市民局市民安全推進課

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査の方法	1
3 回収状況	1
4 報告書の見方	1

II 調査結果

回答者の属性	3
問4 活動目的	5
問5 活動内容	7
問6 主な活動場所	9
問7 活動頻度	11
問8 以前と比べた活動頻度	13
問9 活動頻度が増えた理由	14
問10 活動頻度が減った理由	15
問11 活動を継続するうえでの問題点や課題	16
問12 防犯活動を維持するうえでの活動費	19
問13 活動費の確保	20
問14 活動総額	22
問15 活動地域の治安	23
問16 以前と比べた活動地域の治安	25
問15、問16 活動地域の以前の治安と現在の治安の変化	28
問17 活動地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由	29
問18 活動地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由	31
問19 活動地域において起こるかもしれないと不安を感じる犯罪	32
問20 活動地域において犯罪が起こるかもしれないと不安を感じる場所	34
問21 地域住民が犯罪被害にあわないために心がけるべきこと	36
問22 活動地域の治安を良くするために、行政や警察が強化すれば良いと思う取組	38

問 23	地域や個人・事業者で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援...	40
問 24	防犯カメラの設置	42
問 25	防犯カメラで撮影されること	43
問 26	流川・薬研堀地区の印象	44
問 27	再犯防止のために必要だと思うこと	46
問 28	再犯防止のために広島市がすべきこと	49
問 29	『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について	51

Ⅲ 自由意見

1	行政への意見・要望について	55
2	活動内容について	55
3	その他の意見について	55

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

犯罪の起こりにくい安全なまちをめざして、治安に対する意識や安全・安心なまちづくりに対する意見、要望を把握し、「第3次広島市安全なまちづくりの推進に関する基本計画」改定の施策展開の基礎資料とするため調査を実施した。

2 調査の方法

(1) 調査対象

広島市安全なまちづくり功労者表彰を受けた 97 団体

(2) 調査方法

郵送法・無記名方式

(3) 調査時期

令和元年 12 月 11 日（水）～令和 2 年 1 月 23 日（木）

3 回収状況

(1) 調査票配布数 97 票

(2) 有効回収数 82 票 有効回収率 84.5%

4 報告書の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0% とならない場合がある。

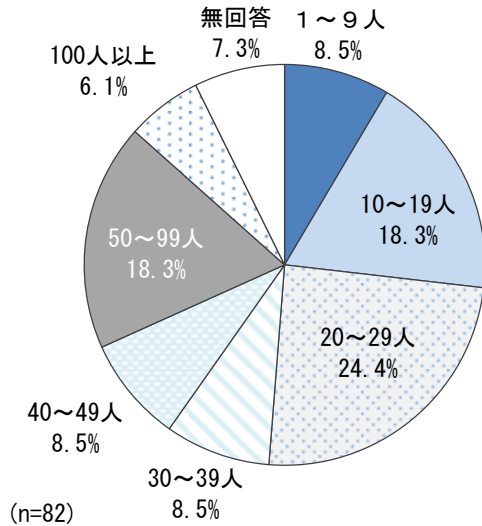
(2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがある。

Ⅱ 調 査 結 果

II 調査結果

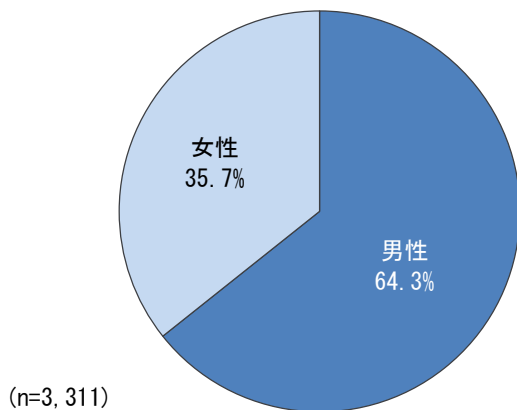
—回答者の属性—

(1) 構成員数



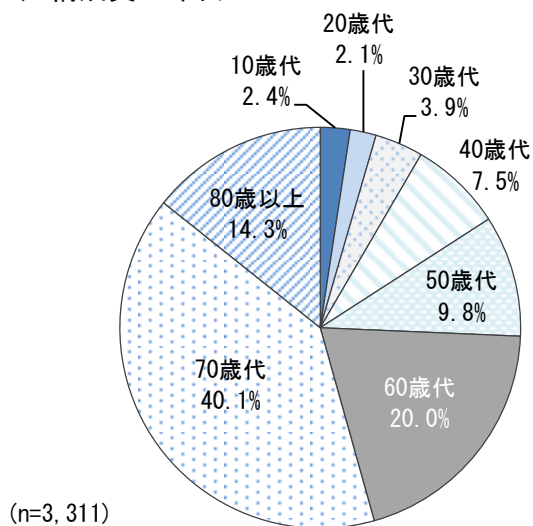
	団体数	(%)
1～9人	7	8.5
10～19人	15	18.3
20～29人	20	24.4
30～39人	7	8.5
40～49人	7	8.5
50～99人	15	18.3
100人以上	5	6.1
無回答	6	7.3
合 計	82	100.0

(2) 構成員の性別



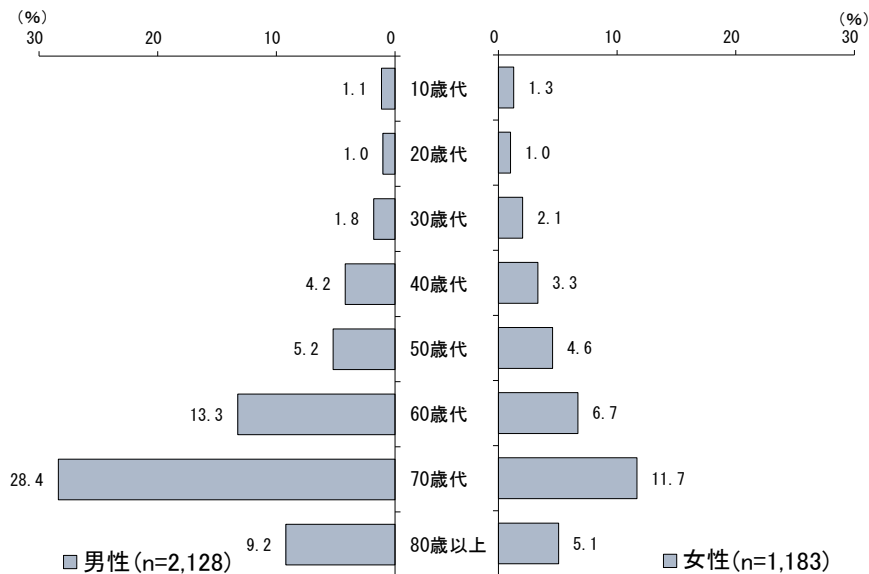
	人数	(%)
男性	2,128	64.3
女性	1,183	35.7
合 計	3,311	100.0

(3) 構成員の年代



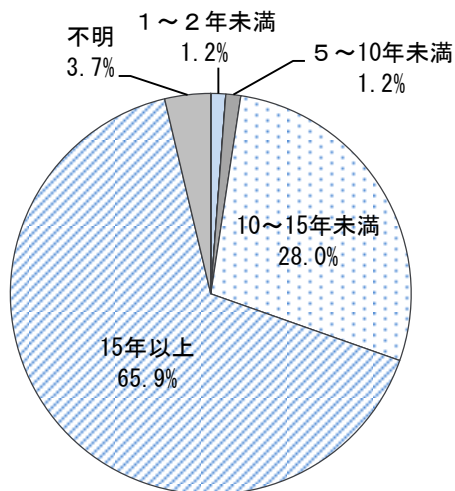
	人数	(%)
10歳代	81	2.4
20歳代	68	2.1
30歳代	128	3.9
40歳代	249	7.5
50歳代	324	9.8
60歳代	661	20.0
70歳代	1,327	40.1
80歳以上	473	14.3
合 計	3,311	100.0

(4) 構成員の性年代



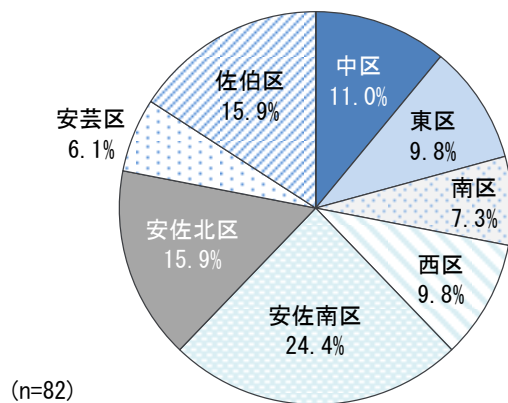
	人数	(%)
男性	10歳代	38 1.1
	20歳代	34 1.0
	30歳代	60 1.8
	40歳代	139 4.2
	50歳代	173 5.2
	60歳代	439 13.3
	70歳代	940 28.4
	80歳以上	305 9.2
女性	10歳代	43 1.3
	20歳代	34 1.0
	30歳代	68 2.1
	40歳代	110 3.3
	50歳代	151 4.6
	60歳代	222 6.7
	70歳代	387 11.7
	80歳以上	168 5.1
合 計	3,311	100.0

(5) 活動年数



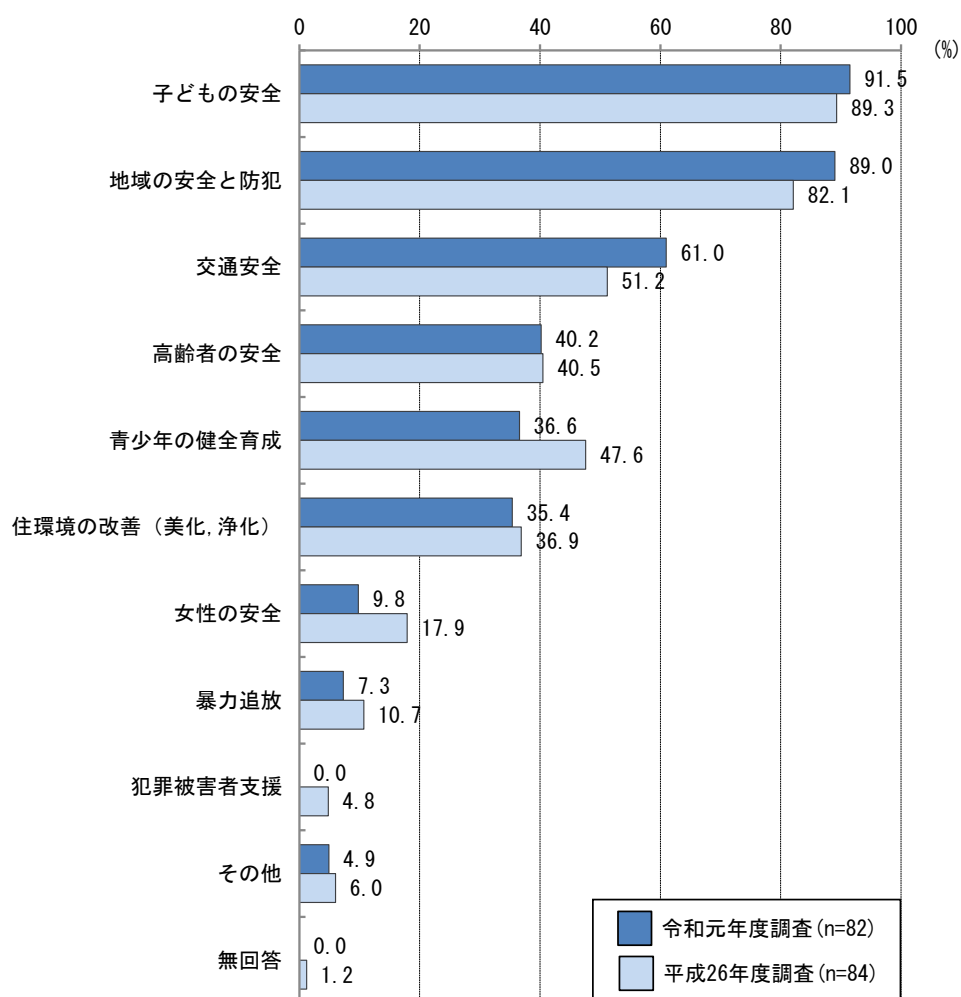
	団体数	(%)
1年未満	0	0.0
1～2年未満	1	1.2
2～3年未満	0	0.0
3～4年未満	0	0.0
4～5年未満	0	0.0
5～10年未満	1	1.2
10～15年未満	23	28.0
15年以上	54	65.9
不明	3	3.7
無回答	0	0.0
合 計	82	100.0

(6) 活動地区（複数回答）



	団体数	(%)
中区	9	11.0
東区	8	9.8
南区	6	7.3
西区	8	9.8
安佐南区	20	24.4
安佐北区	13	15.9
佐伯区	13	15.9
安芸区	5	6.1
無回答	0	0.0
合 計	82	100.0

問4 活動目的はどういったことですか。(〇は、いくつでも)



活動目的について、「子どもの安全」との回答が91.5%と最も高く、次いで「地域の安全と防犯」(89.0%)、「交通安全」(61.0%)などの順となっている。

子どもや地域の安全や防犯が主な活動目的となっている。

前回調査と比較すると、「地域の安全と防犯」との回答は6.9ポイント、「交通安全」との回答は9.8ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「青少年の健全育成」との回答は今回調査が前回調査を11.0ポイント下回っている。

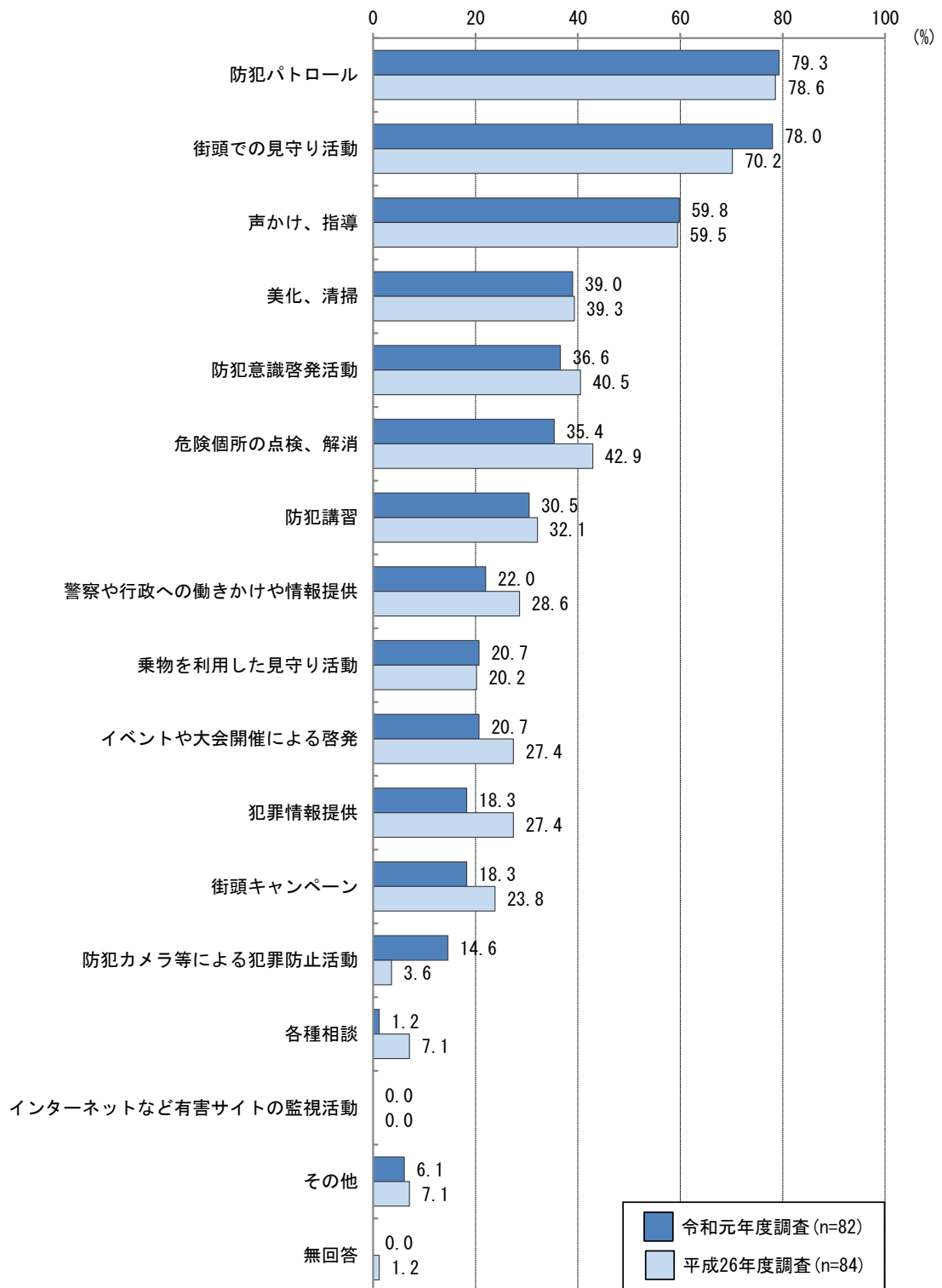
【図表 活動目的（活動地区別）】

(%)

	件 数	子 ど も の 安 全	地 域 の 安 全 と 防 犯	交 通 安 全	高 齢 者 の 安 全	青 少 年 の 健 全 育 成	住 環 境 の 改 善 （ 美 化 ， 浄 化 ）	女 性 の 安 全
全 体	82	91.5	89.0	61.0	40.2	36.6	35.4	9.8
活 動 地 区 別	中区	9	88.9	100.0	55.6	11.1	33.3	11.1
	東区	8	87.5	87.5	62.5	37.5	50.0	12.5
	南区	6	100.0	83.3	83.3	50.0	33.3	16.7
	西区	8	87.5	100.0	62.5	62.5	25.0	0.0
	安佐南区	20	95.0	75.0	80.0	50.0	35.0	10.0
	安佐北区	13	92.3	84.6	53.8	38.5	38.5	15.4
	安芸区	5	100.0	100.0	40.0	40.0	20.0	0.0
	佐伯区	13	84.6	100.0	38.5	30.8	23.1	7.7

活動目的について、活動地区別にみると、中区、西区、佐伯区は「地域の安全と防犯」、南区は「子供の安全」との回答が高くなっている。

問5 活動内容はどのようなことですか。(〇は、いくつでも)



活動内容について、「防犯パトロール」との回答が79.3%と最も高く、次いで「街頭での見守り活動」(78.0%)、「声かけ、指導」(59.8%)などの順となっている。

防犯パトロールや街頭での見守り活動、声かけや指導が活動の主な内容となっている。

前回調査と比較すると、「街頭での見守り活動」との回答は7.8ポイント、「防犯カメラ等による

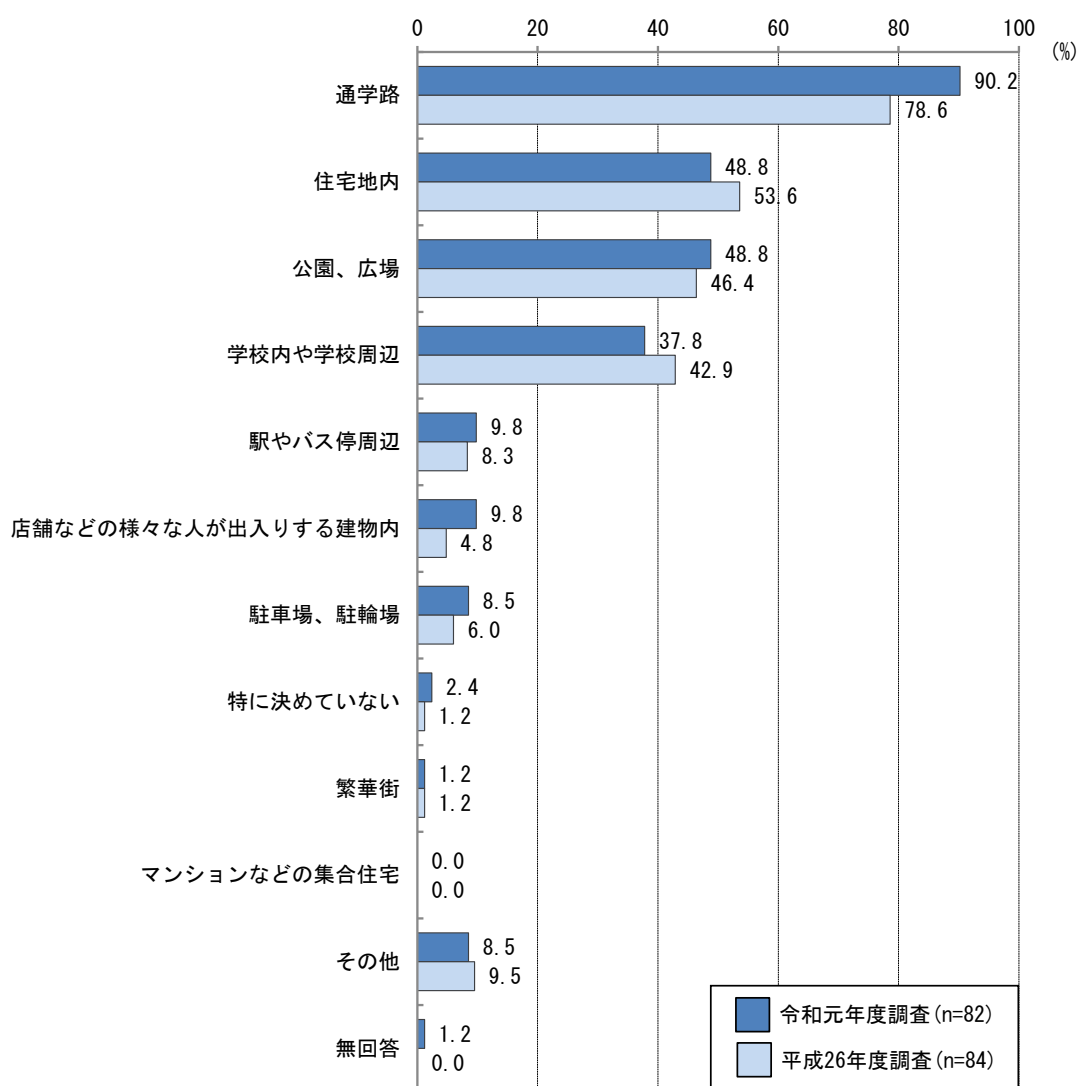
犯罪防止活動」との回答は 11.0 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「危険個所の点検、解消」との回答は 7.5 ポイント、「警察や行政への働きかけや情報提供」との回答は 6.6 ポイント、「イベントや大会開催による啓発」との回答は 6.7 ポイント、「街頭キャンペーン」との回答は 5.5 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

【図表 活動内容（活動地区別）】

		(%)							
		件数	防犯パトロール	街頭での見守り活動	声かけ、指導	美化、清掃	防犯意識啓発活動	危険個所の点検、解消	防犯講習
全 体		82	79.3	78.0	59.8	39.0	36.6	35.4	30.5
活動地区別	中区	9	88.9	77.8	22.2	33.3	33.3	55.6	11.1
	東区	8	87.5	75.0	75.0	37.5	62.5	25.0	50.0
	南区	6	66.7	100.0	83.3	50.0	16.7	50.0	16.7
	西区	8	87.5	75.0	37.5	50.0	50.0	25.0	12.5
	安佐南区	20	80.0	90.0	80.0	35.0	40.0	40.0	45.0
	安佐北区	13	69.2	69.2	53.8	23.1	38.5	46.2	7.7
	安芸区	5	60.0	100.0	40.0	0.0	20.0	40.0	40.0
	佐伯区	13	84.6	53.8	61.5	69.2	23.1	7.7	46.2

活動内容について、活動地区別にみると、中区、東区、西区、安佐南区、佐伯区は「防犯パトロール」が高く、他に、中区は「街頭での見守り活動」、安佐北区は「街頭での見守り活動」、「声かけ、指導」との回答も高くなっている。

問6 主な活動場所はどこですか。(〇は、3つ以内)



主な活動場所について、「通学路」との回答が90.2%と最も高く、次いで「住宅地内」、「公園、広場」（ともに48.8%）、「学校内や学校周辺」（37.8%）などの順となっている。

ほとんどの団体が主に通学路で活動している。

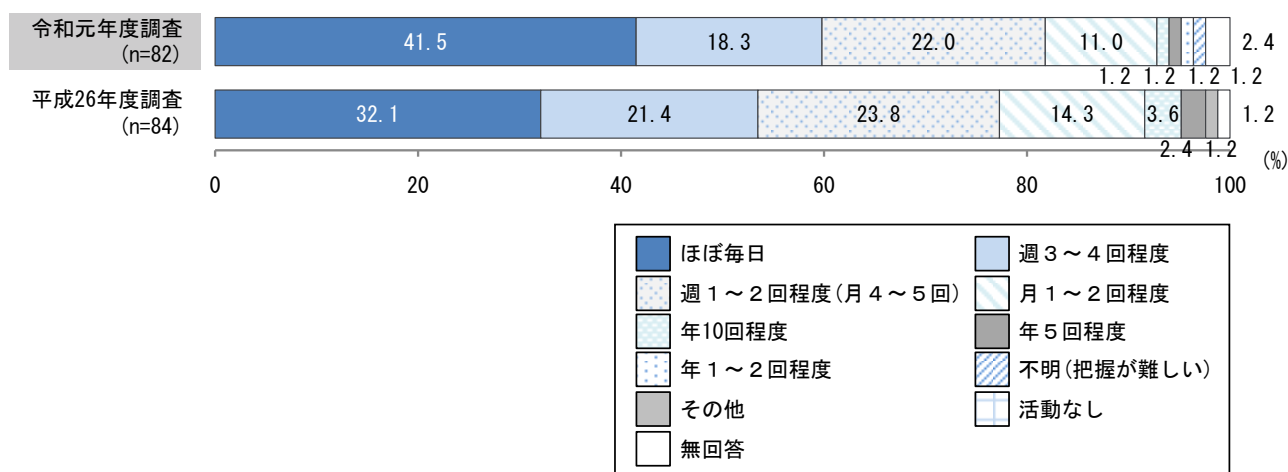
前回調査と比較すると、「通学路」との回答は11.6ポイント、「店舗などの様々な人が出入りする建物内」との回答は5.0ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「学校内や学校周辺」との回答は今回調査が前回調査を5.1ポイント下回っている。

【図表 活動場所（活動地区別）】

									(%)
		件数	通学路	住宅地内	公園、広場	学校内や学校周辺	駅やバス停周辺	店舗などの様々な人が出入りする建物内	駐車場、駐輪場
全 体		82	90.2	48.8	48.8	37.8	9.8	9.8	8.5
活動地区別	中区	9	66.7	55.6	66.7	44.4	0.0	0.0	11.1
	東区	8	100.0	12.5	50.0	50.0	0.0	0.0	12.5
	南区	6	100.0	66.7	83.3	50.0	0.0	33.3	16.7
	西区	8	87.5	87.5	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0
	安佐南区	20	95.0	45.0	55.0	40.0	25.0	10.0	20.0
	安佐北区	13	100.0	53.8	30.8	30.8	7.7	15.4	0.0
	安芸区	5	100.0	40.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
	佐伯区	13	76.9	38.5	46.2	53.8	0.0	0.0	0.0

活動場所について、活動地区別にみると、東区、南区、西区、安佐南区、安佐北区で「通学路」との回答が高く、他に、西区では「住宅地内」も高くなっている。

問7 昨年1年間における活動頻度はどれくらいですか。(〇は、1つ)

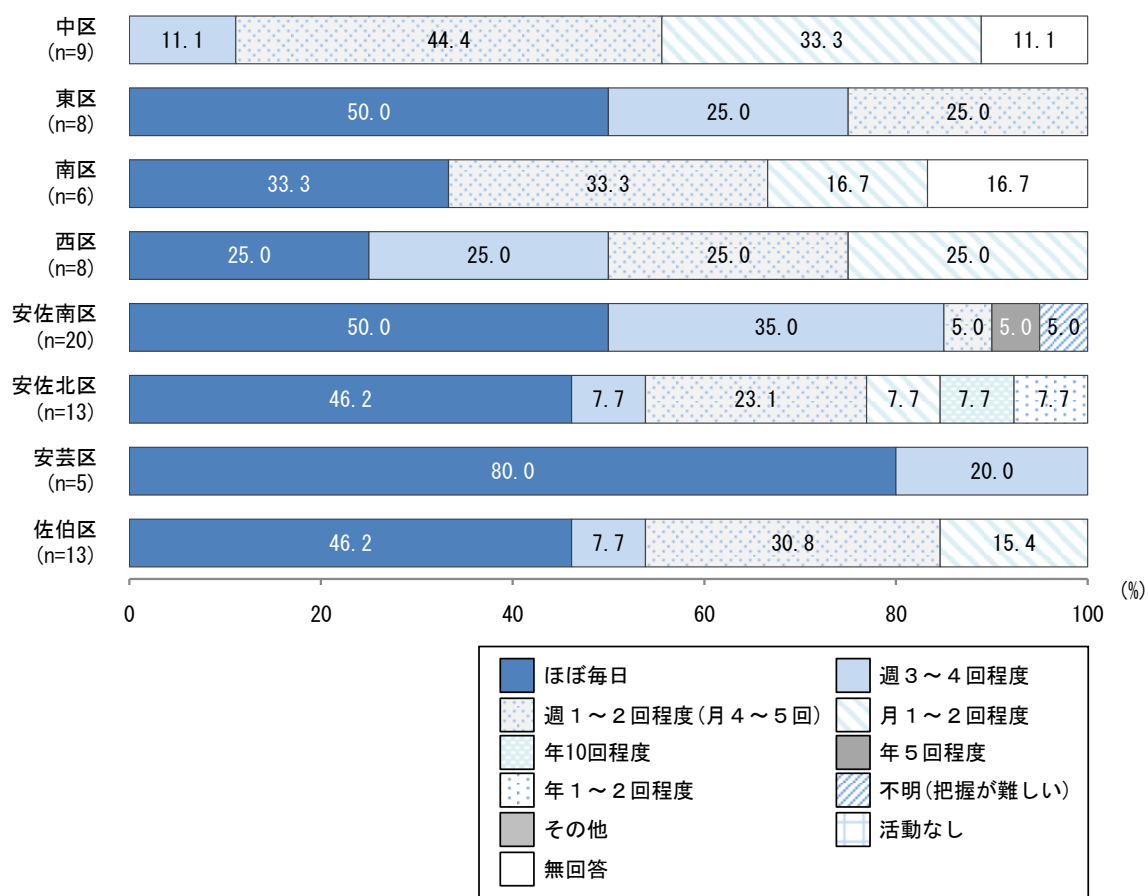


活動頻度について、「ほぼ毎日」との回答が41.5%と最も高く、次いで「週1～2回程度(月4～5回)」(22.0%)、「週3～4回程度」(18.3%)などの順となっている。

昨年1年間は、多くの団体で、ほぼ毎日活動があった。

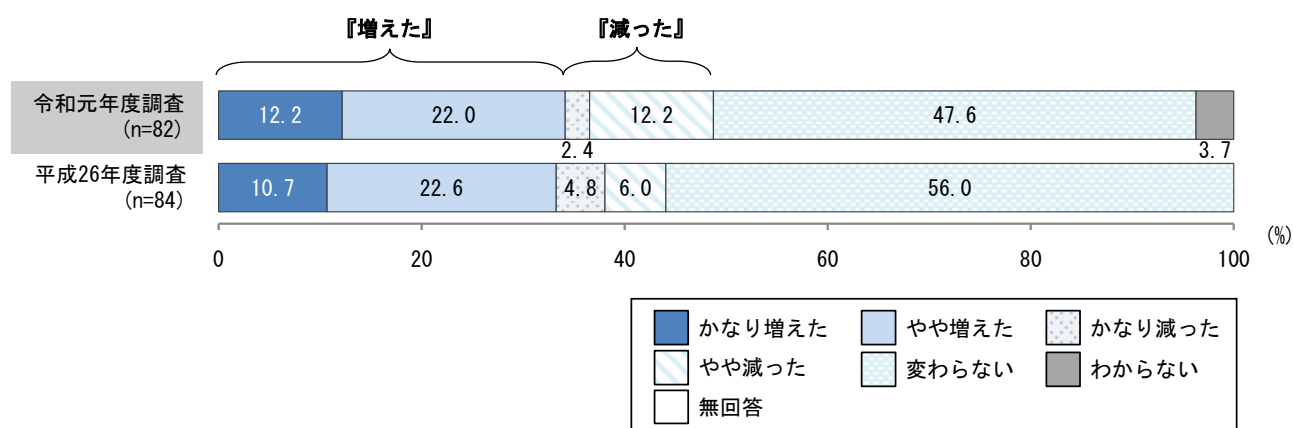
前回調査と比較すると、「ほぼ毎日」との回答は今回調査が前回調査を9.4ポイント上回っている。

【図表 活動頻度（活動地区別）】



活動頻度について、活動地区別にみると、中区は「週1～2回程度（月4～5回）」、東区、安佐南区、安佐北区、佐伯区は「ほぼ毎日」との回答が高くなっている。

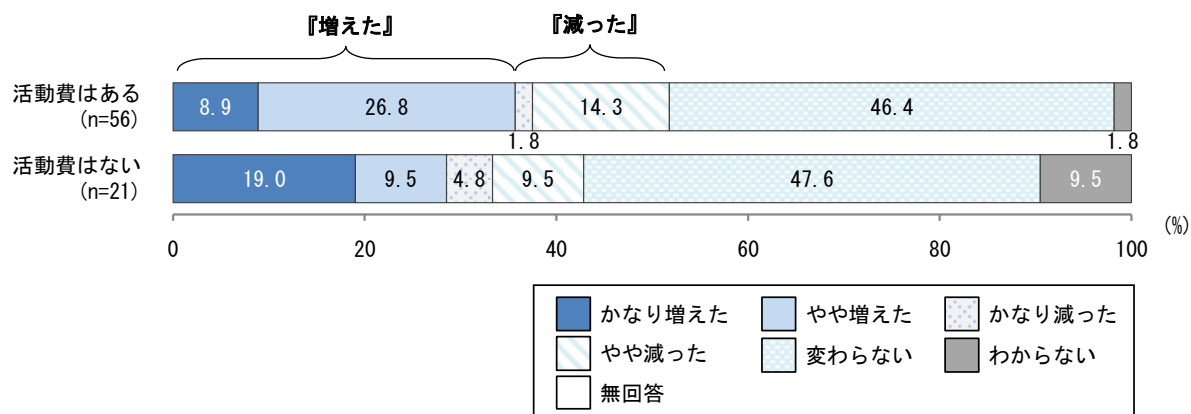
問 8 以前（概ね 5 年前）と比べて、活動頻度はどうですか。（〇は、1 つ）



以前と比べた活動頻度について、『増えた』（「かなり増えた」と「やや増えた」を合計した割合）との回答は34.2%、『減った』（「かなり減った」と「やや減った」を合計した割合）との回答は14.6%、「変わらない」との回答は47.6%となっている。

前回調査と比較すると、「変わらない」との回答は今回調査が前回調査を 8.4 ポイント下回っている。

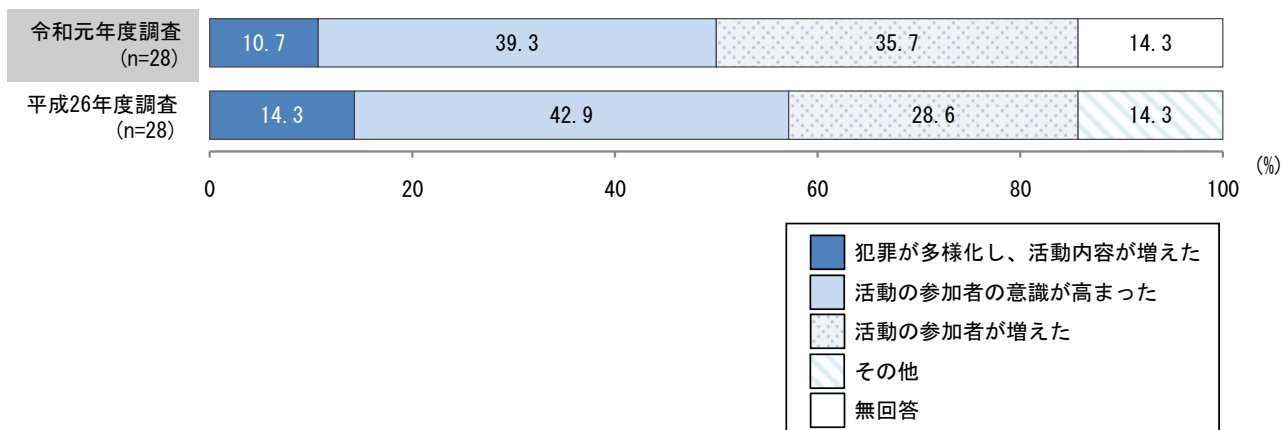
【図表 以前と比べた活動頻度（活動費の有無別）】



以前と比べた活動頻度について、活動費の有無別にみると、『増えた』との回答は活動費がある団体（35.7%）が活動費はない団体（28.5%）を 7.2 ポイント上回っている。

活動費の有無により、活動量に変化が見られた。

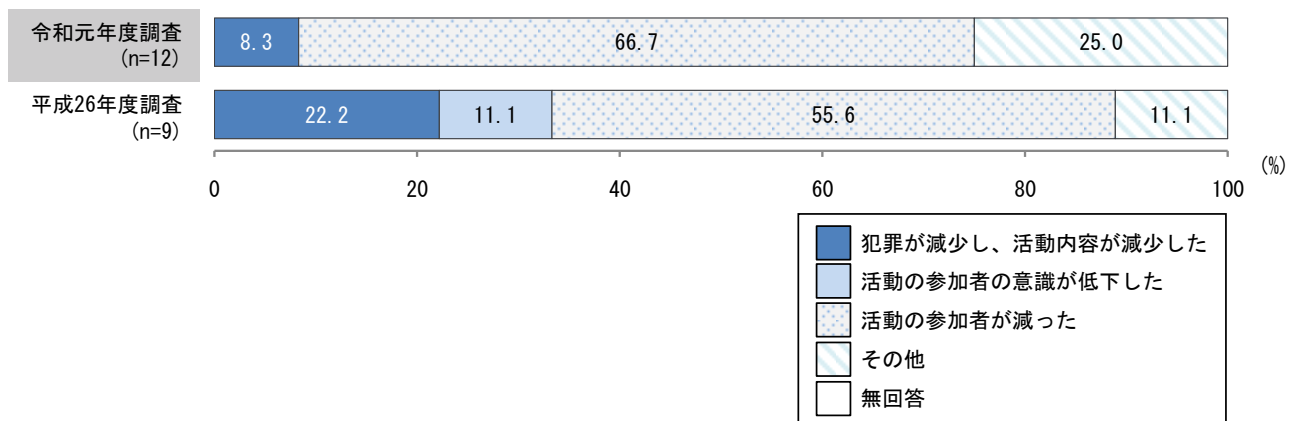
問9 【問8で、「1 かなり増えた」または「2 やや増えた」と回答された団体】
活動頻度が増えた主な理由は何ですか。（〇は、1つ）



活動頻度が増えた理由について、「活動の参加者の意識が高まった」との回答が39.3%と最も高く、次いで「活動の参加者が増えた」(35.7%)、「犯罪が多様化し、活動内容が増えた」(10.7%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「活動の参加者が増えた」との回答は今回調査が前回調査を7.1ポイント上回っている。

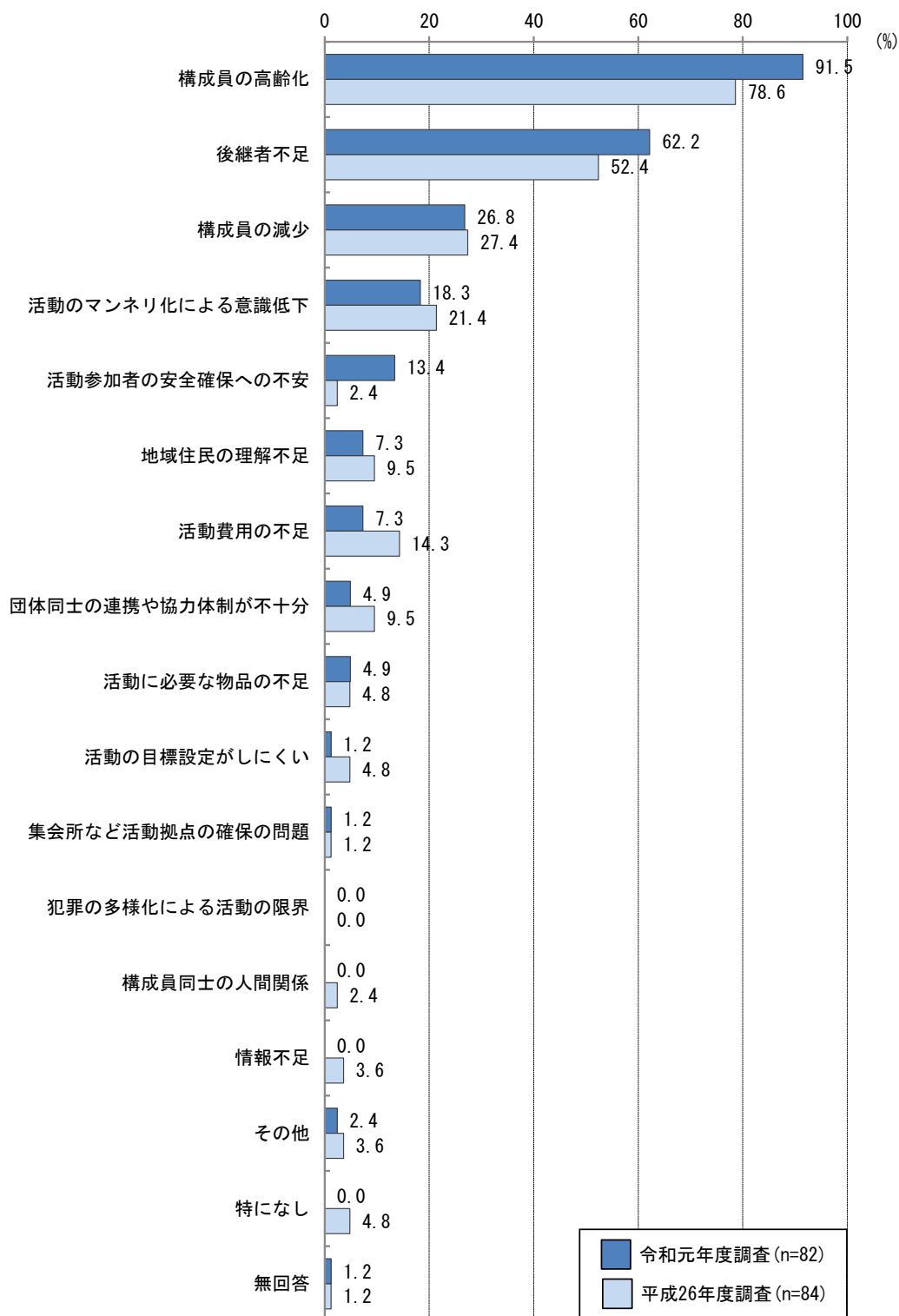
問 10 【問 8 で、「3 かなり減った」または「4 やや減った」と回答された団体】
活動頻度が減った主な理由は何ですか。（〇は、1 つ）



活動頻度が減った理由について、「活動の参加者が減った」との回答が 66.7%と最も高く、次いで「犯罪が減少し、活動内容が減少した」（8.3%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「犯罪が減少し、活動内容が減少した」との回答は 13.9 ポイント、「活動の参加者の意識が低下した」との回答は 11.1 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「活動の参加者が減った」との回答は今回調査が前回調査を 11.1 ポイント上回っている。

問 11 貴団体が活動を継続するうえで、抱えておられる問題点や課題はどういったことですか。
(○は、3つ以内)



活動を継続するうえでの問題点や課題について、「構成員の高齢化」との回答が 91.5%と最も高く、次いで「後継者不足」(62.2%)、「構成員の減少」(26.8%)などの順となっている。

活動を継続するうえで構成員の高齢化が問題となっており、また、後継者不足という課題が顕著になっている。

前回調査と比較すると、「構成員の高齢化」との回答は 12.9 ポイント、「後継者不足」との回答は 9.8 ポイント、「活動参加者の安全確保への不安」との回答は 11.0 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「活動費用の不足」との回答は今回調査が前回調査 7.0 ポイント下回っている。

【図表 活動を継続するうえでの問題点や課題（団体規模別）】

		(%)						
	件数	構成員の高齢化	後継者不足	構成員の減少	活動のマンネリ化による意識低下	活動参加者の安全確保への不安	地域住民の理解不足	活動費用の不足
全 体		82	91.5	62.2	26.8	18.3	13.4	7.3
団体規模別	1～9人	7	100.0	57.1	14.3	0.0	0.0	14.3
	10～19人	15	80.0	80.0	26.7	40.0	13.3	6.7
	20～29人	20	85.0	60.0	25.0	10.0	0.0	5.0
	30～39人	7	100.0	71.4	0.0	14.3	28.6	42.9
	40～49人	7	100.0	71.4	42.9	14.3	42.9	0.0
	50～99人	15	93.3	40.0	46.7	13.3	20.0	0.0
	100人以上	5	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0

活動を継続するうえでの問題点や課題について、団体規模別にみると、すべての規模の団体で「構成員の高齢化」との回答が高く、他に、10～19人の団体で「後継者不足」との回答が高くなっている。

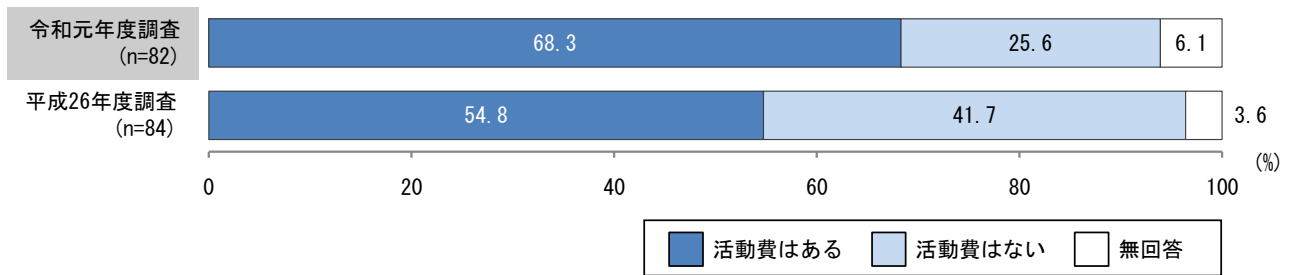
【図表 活動を継続するうえでの問題点や課題（活動地区別）】

(%)

		件数	構成員の高齢化	後継者不足	構成員の減少	活動のマンネリ化による意識低下	活動参加者の安全確保への不安	地域住民の理解不足	活動費用の不足
全 体		82	91.5	62.2	26.8	18.3	13.4	7.3	7.3
活動地区別	中区	9	100.0	77.8	11.1	33.3	11.1	11.1	0.0
	東区	8	100.0	62.5	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0
	南区	6	100.0	83.3	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0
	西区	8	87.5	75.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5
	安佐南区	20	95.0	55.0	40.0	20.0	15.0	15.0	5.0
	安佐北区	13	69.2	46.2	15.4	15.4	38.5	0.0	23.1
	安芸区	5	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐伯区	13	92.3	53.8	38.5	23.1	0.0	0.0	7.7

活動を継続するうえでの問題点や課題について、活動地区別にみると、安佐北区を除く地区で「構成員の高齢化」との回答が高く、他に、南区では「後継者不足」も高くなっている。

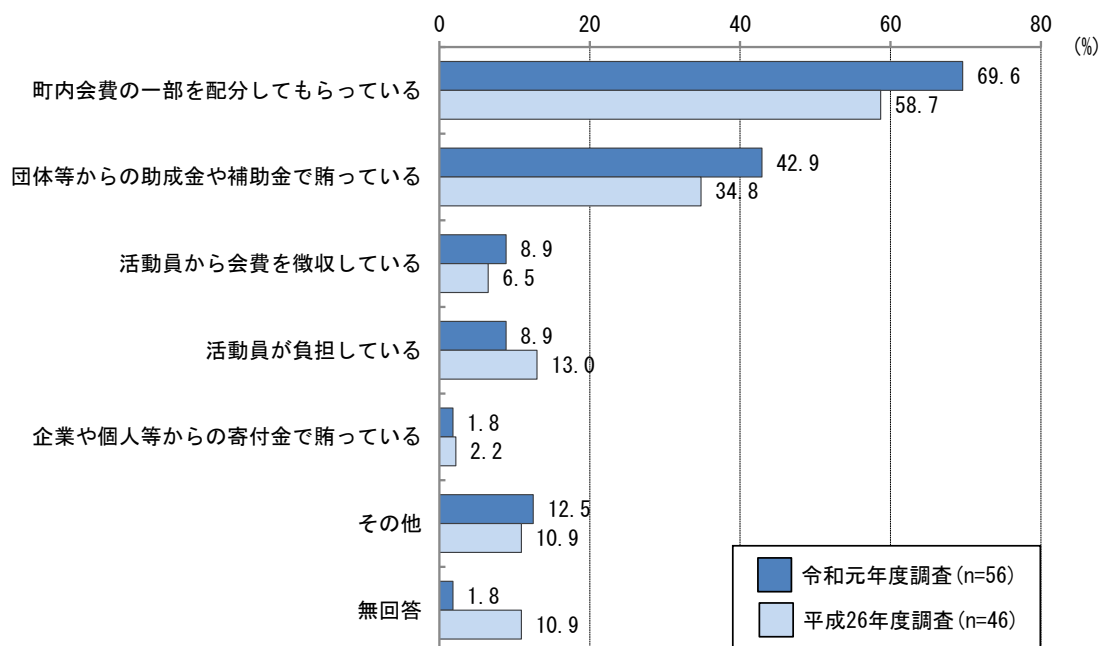
問 12 防犯活動を維持するうえでの活動費はどのような状況ですか。(〇は、1つ)



防犯活動を維持するうえでの活動費について、「活動費はある」との回答は68.3%、「活動費はない」との回答は25.6%となっている。

前回調査と比較すると、「活動費はある」との回答は今回調査が前回調査を13.5ポイント上回っており、活動費のある団体が増えている。

問 13 【問 12 で、「1 活動費はある」と回答された団体】
活動費はどのように確保されていますか。(〇は、いくつでも)



活動費の確保について、「町内会費の一部を配分してもらっている」との回答が 69.6%と最も高く、次いで「団体等からの助成金や補助金で賄っている」(42.9%)などの順となっている。

町内会費の一部配分や団体等からの助成金や補助金で活動費を確保している団体が多くなっている。

前回調査と比較すると、「町内会費の一部を配分してもらっている」との回答は 10.9 ポイント、「団体等からの助成金や補助金で賄っている」との回答は 8.1 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

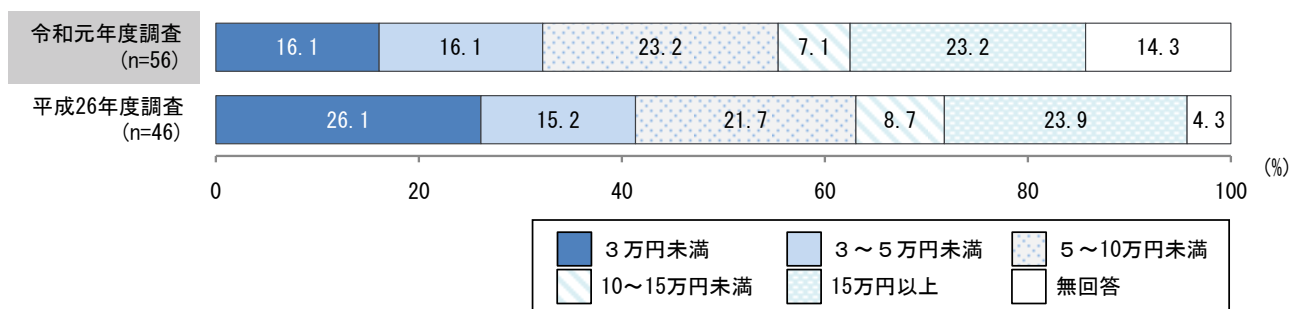
【図表 活動費の確保（活動地区別）】

(%)

	件数	町内会費の一部を配分してもらっている	団体等からの助成金や補助金で賄っている	活動員から会費を徴収している	活動員が負担している	企業や個人等からの寄付金で賄っている	その他	無回答
全 体	56	69.6	42.9	8.9	8.9	1.8	12.5	1.8
活動地区別	中区	7	28.6	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0
	東区	4	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	南区	5	40.0	80.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	西区	6	83.3	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0
	安佐南区	14	85.7	42.9	0.0	0.0	7.1	0.0
	安佐北区	10	80.0	40.0	0.0	10.0	20.0	0.0
	安芸区	4	100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	佐伯区	6	50.0	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7

活動費の確保について、活動地区別にみると、中区は「団体等からの助成金や補助金で賄っている」、西区、安佐南区、安佐北区は「町内会費の一部を配分してもらっている」との回答が高くなっている。

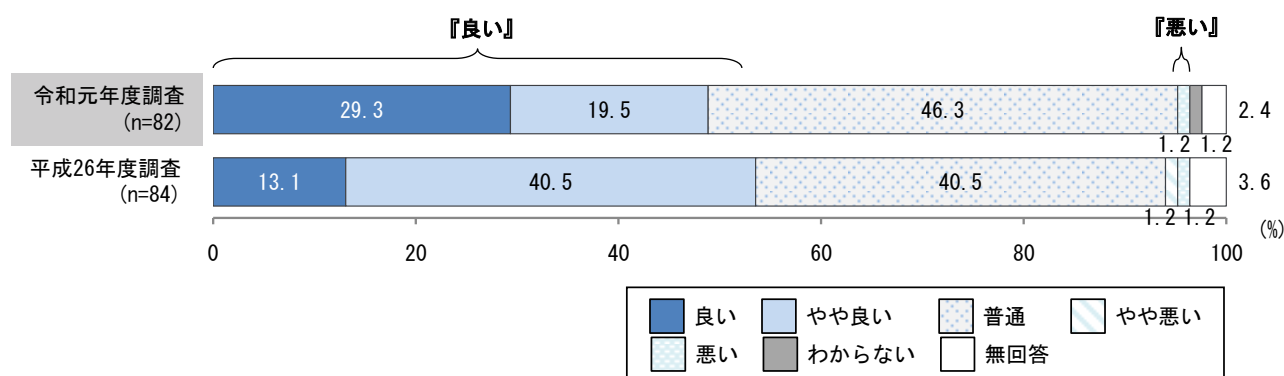
問 14 【問 12 で、「1 町内会費の一部を配分してもらっている」と回答された団体】
昨年 1 年間の活動総額は概ねいくらですか。



活動総額について、「5～10万円未満」、「15万円以上」との回答がともに 23.2%と最も高く、次いで「3万円未満」、「3～5万円未満」（ともに 16.1%）、「10～15万円未満」（7.1%）の順となっている。

前回調査と比較すると、「3万円未満」との回答は今回調査が前回調査を 10.0 ポイント下回っている。

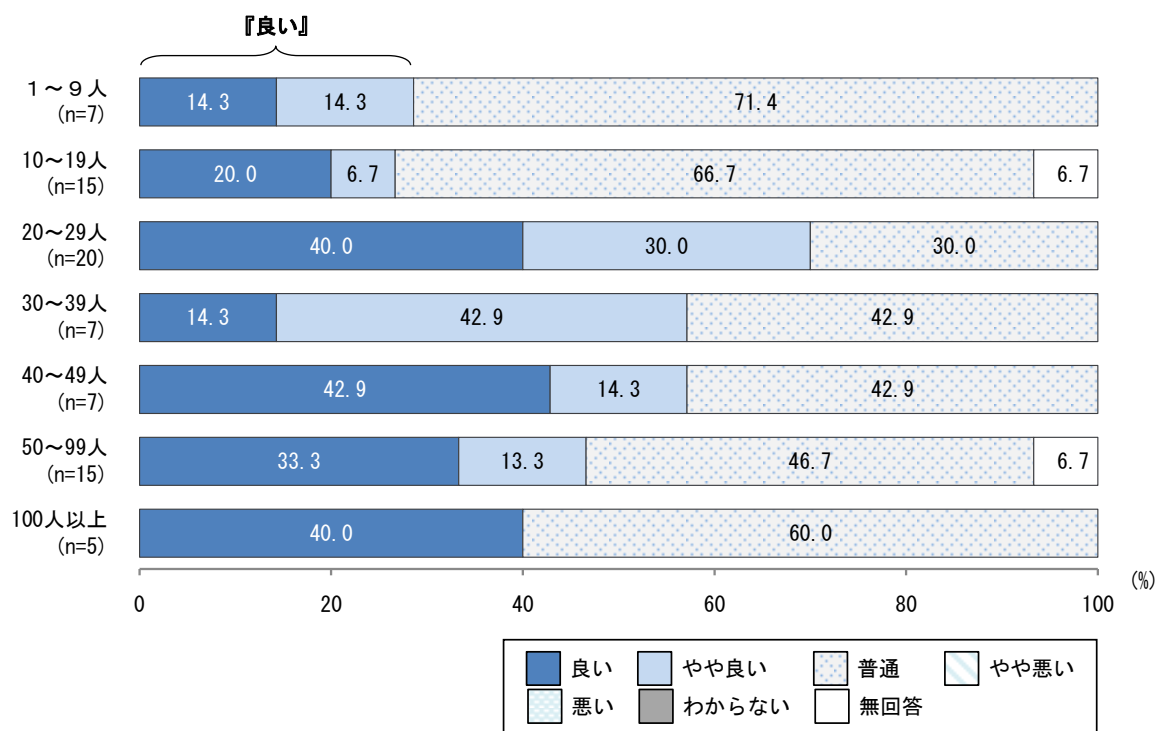
問 15 貴団体の活動地域の治安についてどう感じていますか。(〇は、1つ)



活動地域の治安について、『良い』（「良い」と「やや良い」を合計した割合）との回答は48.8%、「普通」との回答は46.3%、『悪い』（「悪い」と「やや悪い」を合計した割合）との回答は1.2%、「わからない」との回答は1.2%となっている。

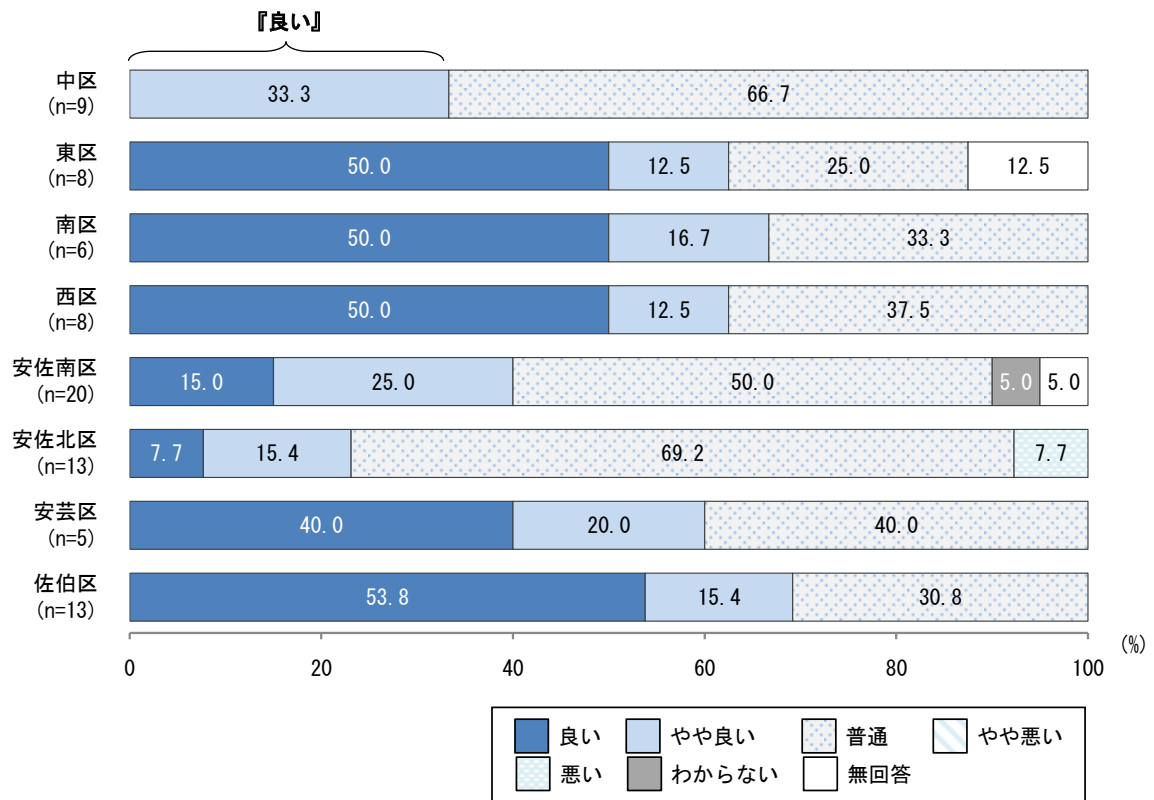
前回調査と比較すると、「普通」との回答は今回調査が前回調査を5.8ポイント上回っている。

【図表 活動地域の治安（団体規模別）】



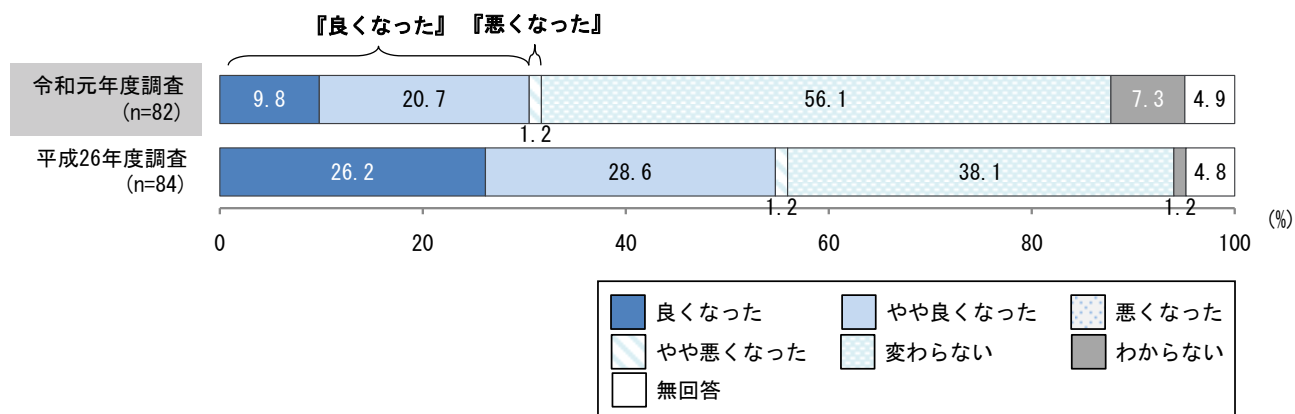
活動地域の治安について、団体規模別にみると、『良い』との回答は団体規模が20～29人の団体で高くなっている。

【図表 活動地域の治安（活動地区別）】



活動地域の治安について、活動地区別にみると、『良い』との回答は南区、佐伯区で高くなっている。

問 16 貴団体の活動地域の治安状況について、以前（概ね5年前）と比べてどのように感じますか。（〇は、1つ）

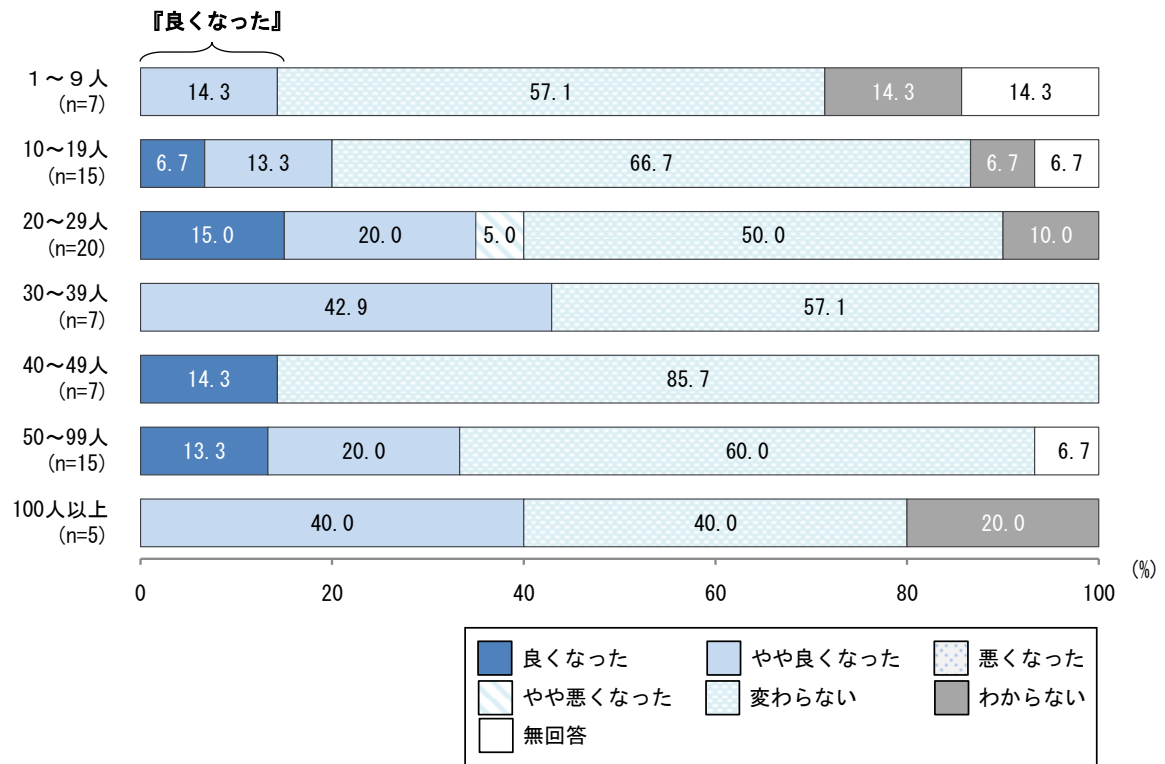


以前と比べた活動地域の治安について、『良くなった』（「良くなった」と「やや良くなった」を合計した割合）が30.5%、『悪くなった』（「悪くなった」と「やや悪くなった」を合計した割合）が1.2%、「変わらない」との回答が56.1%などとなっている。

前回調査と比較すると、『良くなった』との回答は今回調査が前回調査を24.3ポイント下回っており、「変わらない」との回答は今回調査が前回調査を18.0ポイント上回っている。

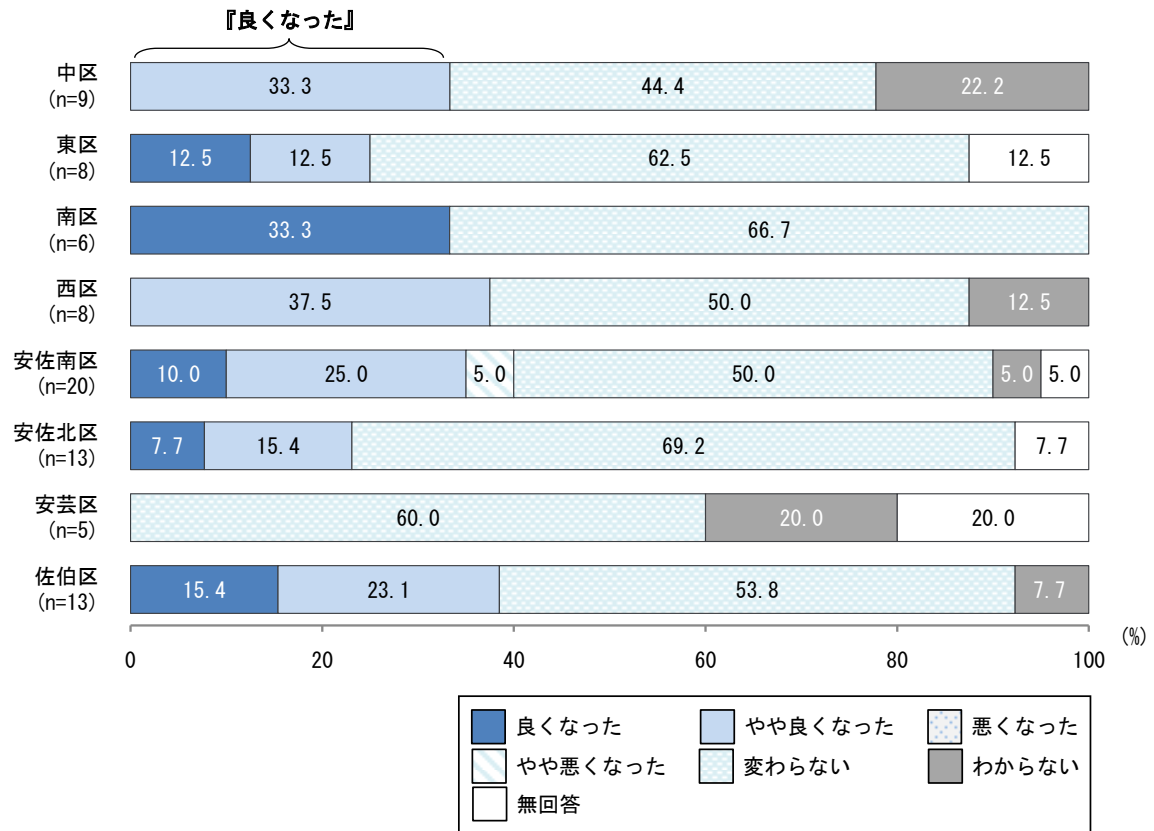
つまり、体感治安が良くなったと感じる団体の割合は30.5%と前回よりさらに悪くなっているが、『悪くなった』との回答1.2%と以前と変わらず低いため、以前と比べて体感治安は好転していないが悪化もしていない。

【図表 以前と比べた活動地域の治安（団体規模別）】



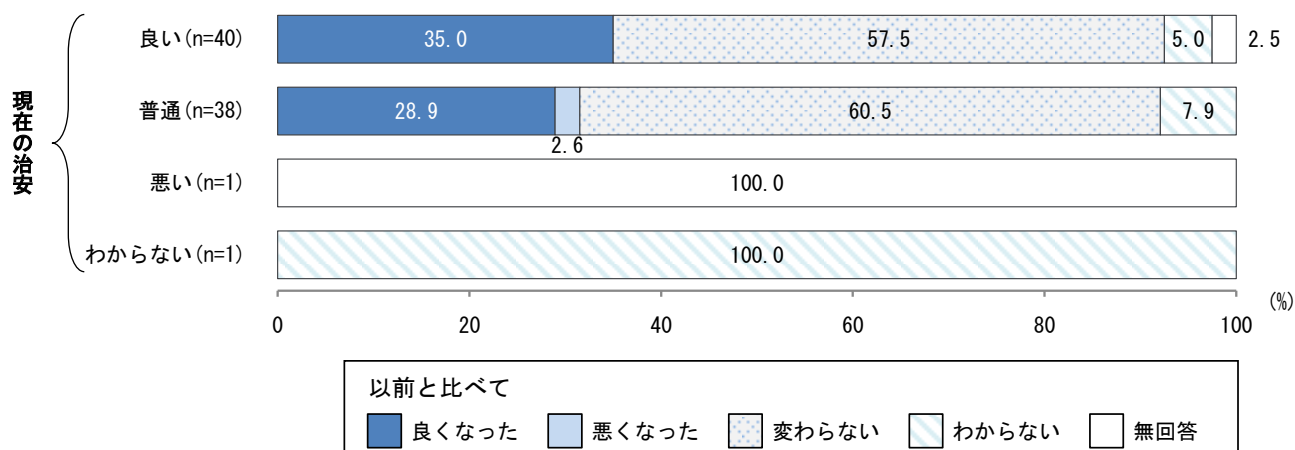
以前と比べた活動地域の治安について、団体規模別にみると、『良くなった』との回答は団体規模が30～39人の団体で高くなっている。

【図表 以前と比べた活動地域の治安（活動地区別）】



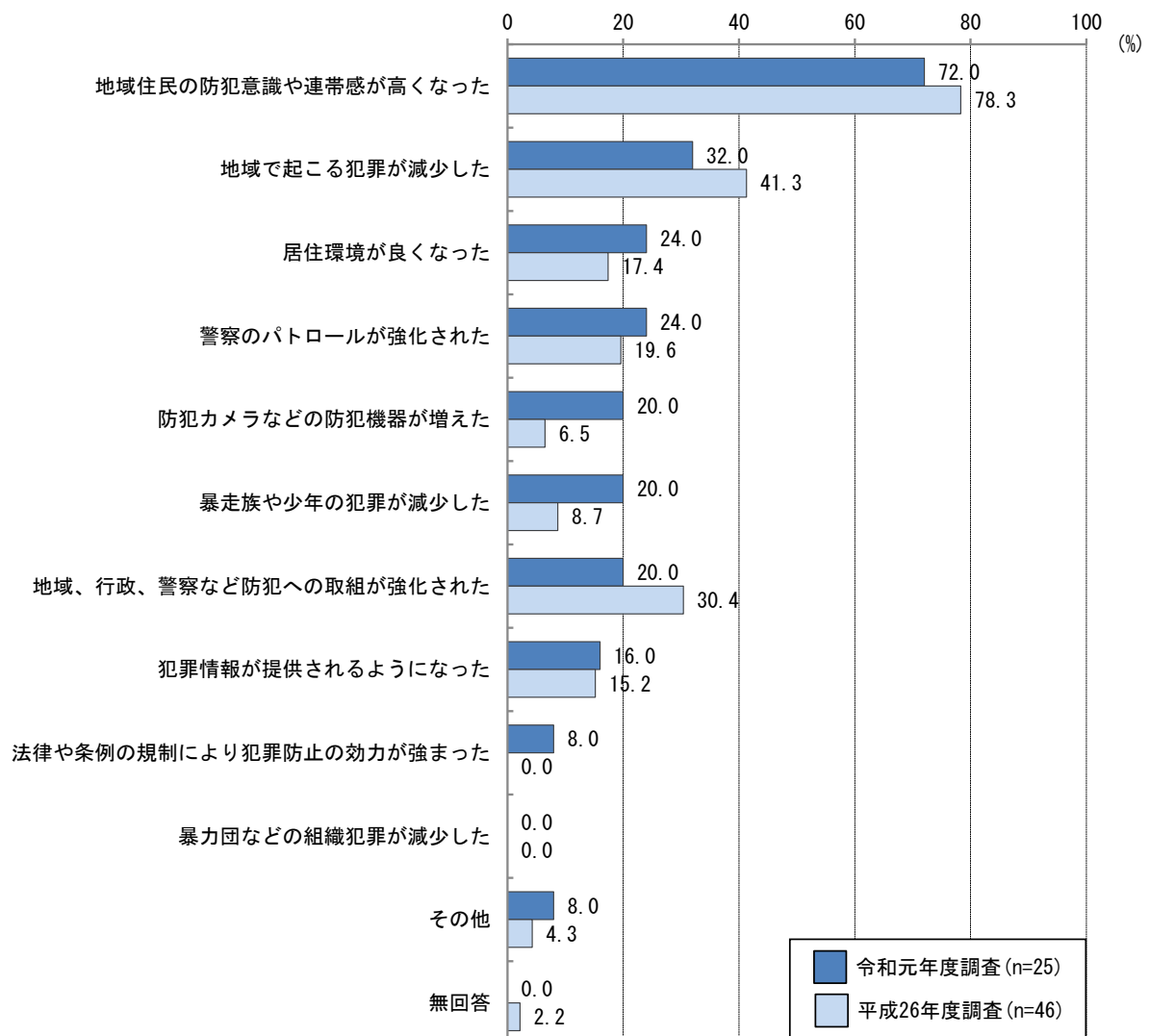
以前と比べた活動地域の治安について、活動地区別にみると、『良くなった』との回答は西区、佐伯区で高くなっている。

問 15、問 16 活動地域の以前の治安と現在の治安の変化



活動地域の治安について、現在『良い』と回答した団体は、以前と比べて『良くなった』との回答が3割台半ば、「変わらない」との回答が約6割、「わからない」との回答が1割未満となっている。現在「普通」と回答した団体は、以前と比べて『良くなった』との回答が約3割、「変わらない」との回答が約6割、『悪くなった』、「わからない」との回答が1割未満となっている。

問 17 【問 16 で、「1 良くなった」または「2 やや良くなった」と回答された団体】
良くなったと感じる理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



活動地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由について、「地域住民の防犯意識や連帯感が強くなった」との回答が 72.0%と最も高く、次いで「地域で起こる犯罪が減少した」(32.0%)などの順となっている。

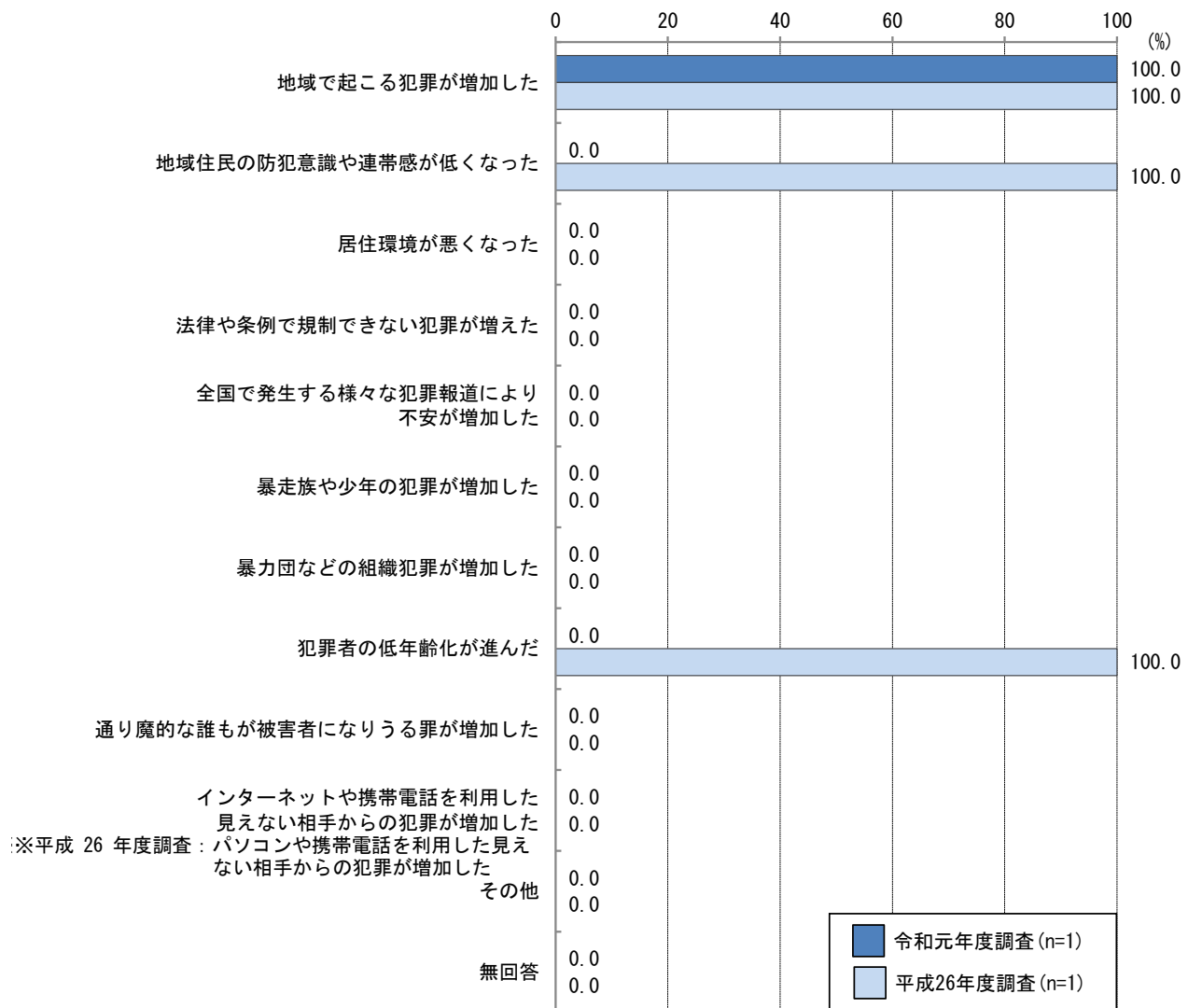
前回調査と比較すると、「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」との回答は 6.3 ポイント、「地域で起こる犯罪が減少した」との回答は 9.3 ポイント、「地域、行政、警察など防犯への取り組みが強化された」との回答は 10.4 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「居住環境が良くなった」との回答は 6.6 ポイント、「防犯カメラなどの防犯機器が増えた」との回答は 13.5 ポイント、「暴走族や少年の犯罪が減少した」との回答は 11.3 ポイント、「法律や条例の規制により犯罪防止への効力が強まった」との回答は 8.0 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【図表 活動地域の治安が以前と比べてよくなったと感じる理由（活動地区別）】

		(%)							
		件数	連地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった	地域で起こる犯罪が減少した	居住環境が良くなった	警察のパトロールが強化された	防犯カメラなどの防犯機が増えた	暴走族や少年の犯罪が減少した	地域への行政、警察強化など
全 体		25	72.0	32.0	24.0	24.0	20.0	20.0	20.0
活動地区別	中区	3	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	東区	2	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0
	南区	2	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	西区	3	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
	安佐南区	7	85.7	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3
	安佐北区	3	66.7	0.0	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3
	安芸区	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐伯区	5	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0

活動地域の治安が以前と比べて良くなったと感じる理由について、活動地区別にみると、中区、南区、安佐南区は「地域住民の防犯意識や連帯感が高くなった」、西区は「地域で起こる犯罪が減少した」との回答が高くなっている。

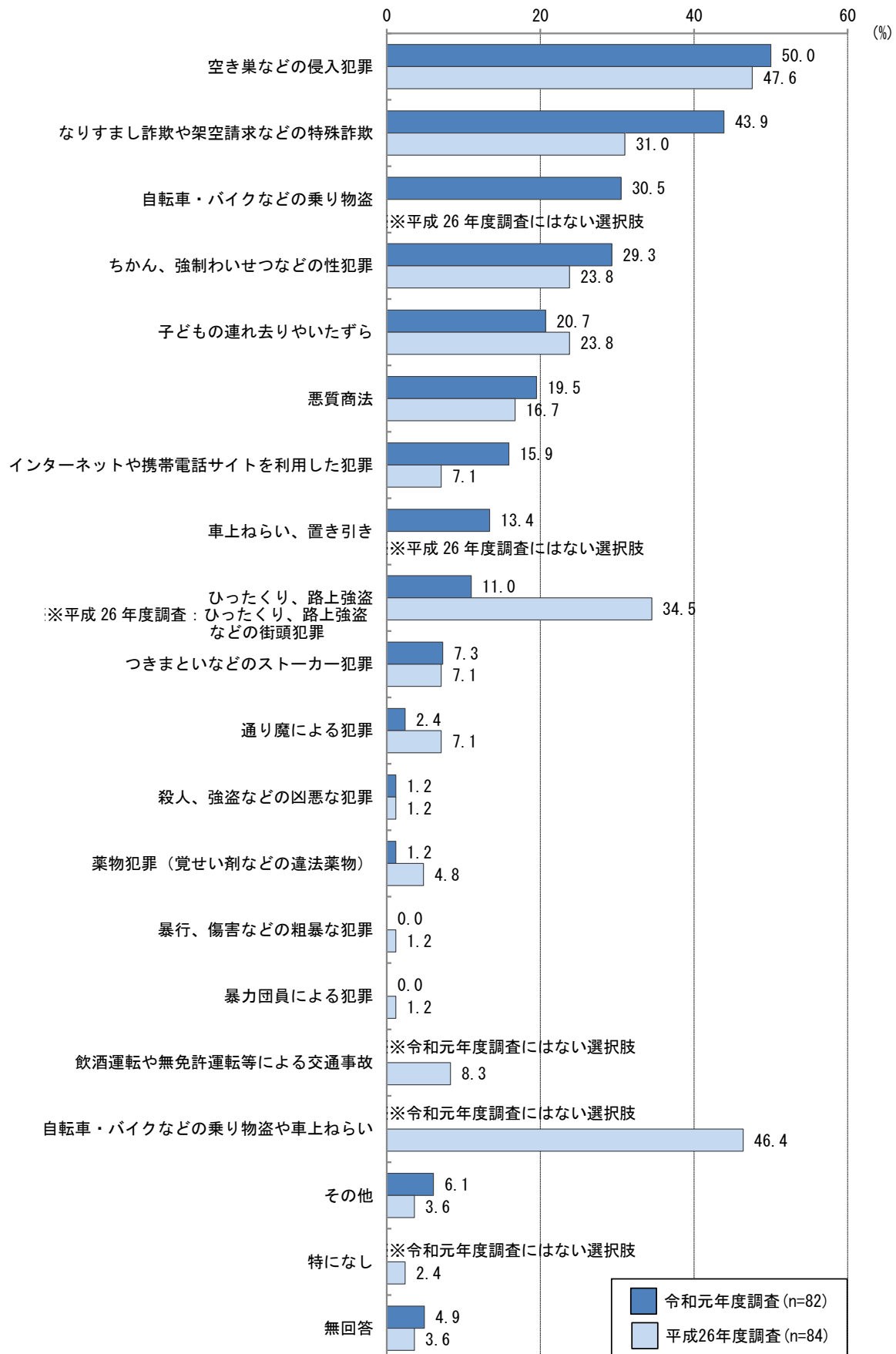
問 18 【問 16 で、「3 悪くなった」または「4 やや悪くなった」と回答された団体】
悪くなったと感じる理由をお答えください。(〇は、3つ以内)



活動地域の治安が以前と比べて悪くなったと感じる理由について、「地域で起こる犯罪が増加した」との回答があった。

問 19 貴団体の活動地域において、起こるかもしれないと不安を感じる犯罪は何ですか。

(○は、3つ以内)



活動地域において起こるかもしれないと不安を感じる犯罪について、「空き巣などの侵入犯罪」との回答が 50.0%と最も高く、次いで「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」(43.9%)、「自転車・バイクなどの乗り物盗」(30.5%)、「ちかん、強制わいせつなどの性犯罪」(29.3%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」との回答は 12.9 ポイント、「ちかん、強制わいせつなどの性犯罪」との回答は 5.5 ポイント、「インターネットや携帯電話サイトを利用した犯罪」との回答は 8.8 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「ひったくり、路上強盗」との回答は今回調査が前回調査を 23.5 ポイント下回っている。

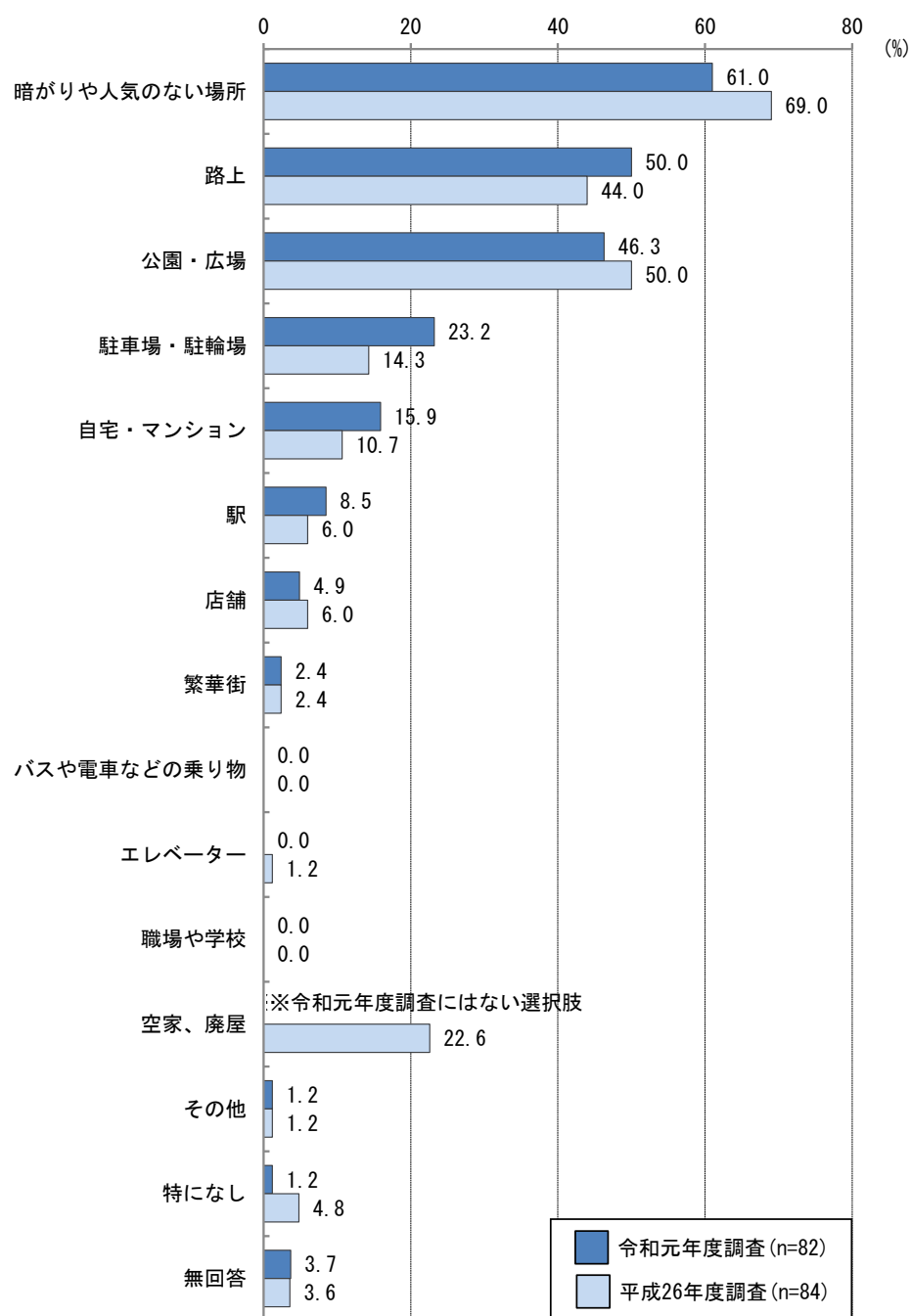
前回調査に比べ、インターネットや携帯電話を使用した犯罪や特殊詐欺が起こるかもしれないと不安を感じている団体が多くなっている。

【図表 活動地域において起こるかもしれないと不安を感じる犯罪（活動地区別）】

		件数	空き巣などの侵入犯罪	なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺	自転車・バイクなどの乗り物盗	ちかん、強制わいせつなどの性犯罪	子どもの連れ去りやいざない	悪質商法	(%) 犯罪電話インターネットを利用した携帯
全 体		82	50.0	43.9	30.5	29.3	20.7	19.5	15.9
活動地区別	中区	9	55.6	22.2	66.7	44.4	0.0	0.0	22.2
	東区	8	37.5	50.0	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0
	南区	6	50.0	66.7	50.0	16.7	33.3	16.7	33.3
	西区	8	75.0	37.5	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0
	安佐南区	20	45.0	45.0	35.0	20.0	10.0	25.0	15.0
	安佐北区	13	30.8	61.5	15.4	23.1	46.2	30.8	15.4
	安芸区	5	60.0	40.0	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0
	佐伯区	13	61.5	30.8	30.8	53.8	23.1	0.0	7.7

活動地域において起こるかもしれないと不安を感じる犯罪について、活動地区別にみると、中区は「自転車・バイクなどの乗り物盗」、南区、安佐北区は「なりすまし詐欺や架空請求などの特殊詐欺」、西区、安芸区、佐伯区は「空き巣などの侵入犯罪」との回答が高くなっている。

問 20 貴団体の活動地域において、犯罪が起こるかもしれないと不安を感じる場所はどこですか。(〇は、3つ以内)



活動地域において犯罪が起こるかもしれないと不安を感じる場所について、「暗がりや人気のない場所」との回答が61.0%と最も高く、次いで「路上」(50.0%)、「公園・広場」(46.3%)などの順となっている。

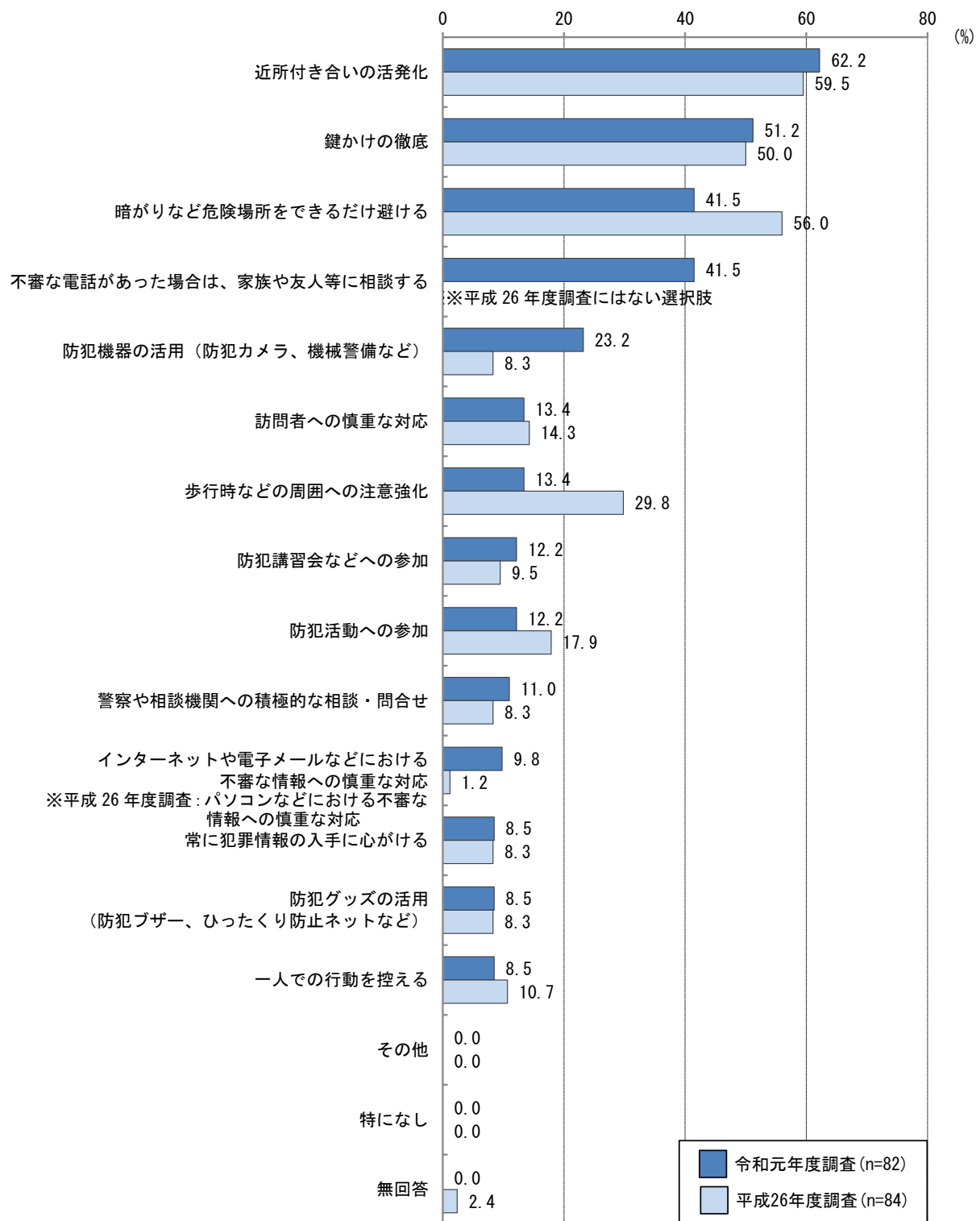
前回調査と比較すると、「暗がりや人気のない場所」との回答は今回調査が前回調査を8.0ポイント下回っている。一方、「路上」との回答は6.0ポイント、「駐車場・駐輪場」との回答は8.9ポイント、「自宅・マンション」との回答は5.2ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【図表 活動地域において犯罪が起こるかもしれないと不安を感じる場所（活動地区別）】

									(%)
		件数	所暗がりや人気のない場	路上	公園・広場	駐車場・駐輪場	自宅・マンション	駅	店舗
全 体		82	61.0	50.0	46.3	23.2	15.9	8.5	4.9
活動地区別	中区	9	55.6	33.3	44.4	33.3	22.2	0.0	0.0
	東区	8	87.5	37.5	50.0	25.0	12.5	0.0	0.0
	南区	6	33.3	83.3	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	西区	8	50.0	62.5	87.5	25.0	12.5	0.0	0.0
	安佐南区	20	40.0	20.0	50.0	35.0	15.0	30.0	10.0
	安佐北区	13	84.6	84.6	30.8	15.4	15.4	0.0	7.7
	安芸区	5	100.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	佐伯区	13	61.5	46.2	46.2	23.1	23.1	7.7	0.0

活動地域において犯罪が起こるかもしれないと不安を感じる場所について、活動地区別にみると、中区、佐伯区は「暗がりや人気のない場所」、南区は「路上」、西区は「公園・広場」、安佐北区は「暗がりや人気のない場所」、「路上」との回答が高くなっている。

問 21 地域住民が犯罪被害にあわないためには、どのようなことに心がけるべきだと思いますか。
(○は、3つ以内)



地域住民が犯罪被害にあわないために心がけるべきことについて、「近所付き合いの活性化」との回答が62.2%と最も高く、次いで「鍵かけの徹底」(51.2%)、「暗がりなど危険場所をできるだけ避ける」、「不審な電話があった場合は、家族や友人等に相談する」(ともに41.5%)などの順となっている。

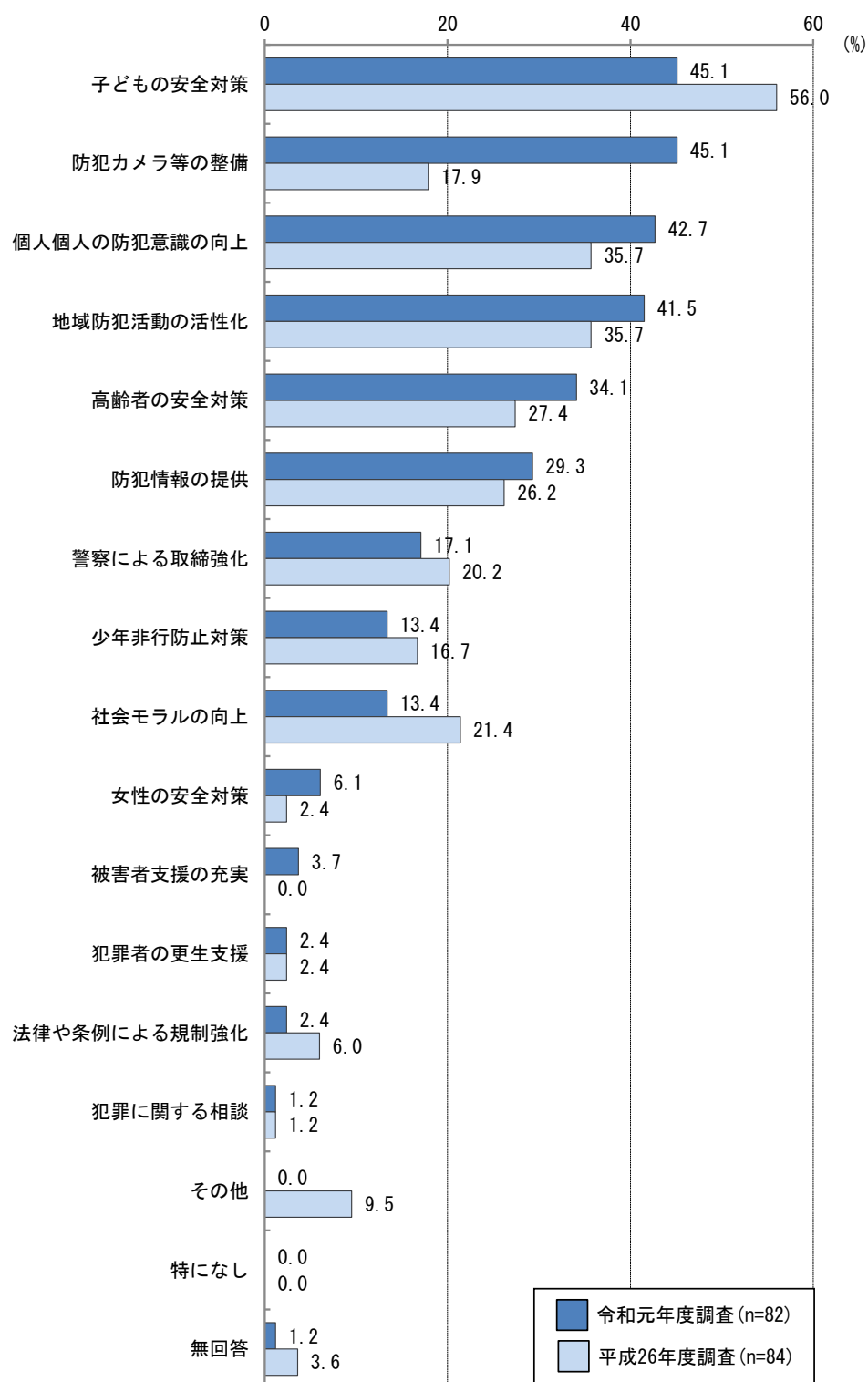
前回調査と比較すると、「暗がりなど危険場所をできるだけ避ける」との回答は 14.5 ポイント、「歩行時などの周囲への注意強化」との回答は 16.4 ポイント、「防犯活動への参加」との回答は 5.7 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「防犯機器の活用（防犯カメラ、機械警備など）」との回答は今回調査が前回調査を 14.9 ポイント上回っている。

【図表 地域住民が犯罪被害にあわないために心がけるべきこと（活動地区別）】

		(%)							
	件数	近所付き合いの活発化	鍵かけの徹底	暗がりなど危険場所を避ける	相合は、不審な電話が家族や友人等に場	防犯カメラ、機械警備など	防犯機器の活用へ	訪問者への慎重な対応	歩行時などの周囲への注意強化
全 体		82	62.2	51.2	41.5	41.5	23.2	13.4	13.4
活動地区別	中区	9	22.2	77.8	66.7	44.4	33.3	0.0	22.2
	東区	8	50.0	37.5	62.5	62.5	12.5	12.5	0.0
	南区	6	33.3	33.3	16.7	50.0	66.7	33.3	0.0
	西区	8	75.0	62.5	50.0	37.5	12.5	0.0	0.0
	安佐南区	20	85.0	60.0	30.0	30.0	10.0	35.0	10.0
	安佐北区	13	53.8	46.2	30.8	46.2	46.2	0.0	30.8
	安芸区	5	80.0	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	佐伯区	13	69.2	30.8	38.5	38.5	15.4	7.7	15.4

地域住民が犯罪被害にあわないために心がけるべきことについて、活動地区別にみると、中区は「鍵かけの徹底」、西区、安佐南区、安芸区は「近所付き合いの活発化」との回答が高くなっている。

問 22 貴団体の活動地域の治安を良くするために、行政や警察が今後どのような取組を強化することが必要と思いますか。（〇は、3つ以内）



活動地域の治安を良くするために、行政や警察が強化すれば良いと思う取組について、「子どもの安全対策」、「防犯カメラ等の整備」との回答がともに 45.1%と最も高く、次いで「個人個人の防犯意識の向上」（42.7%）、「地域防犯活動の活性化」（41.5%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、「子どもの安全対策」との回答は 10.9 ポイント、「社会モラルの向上」

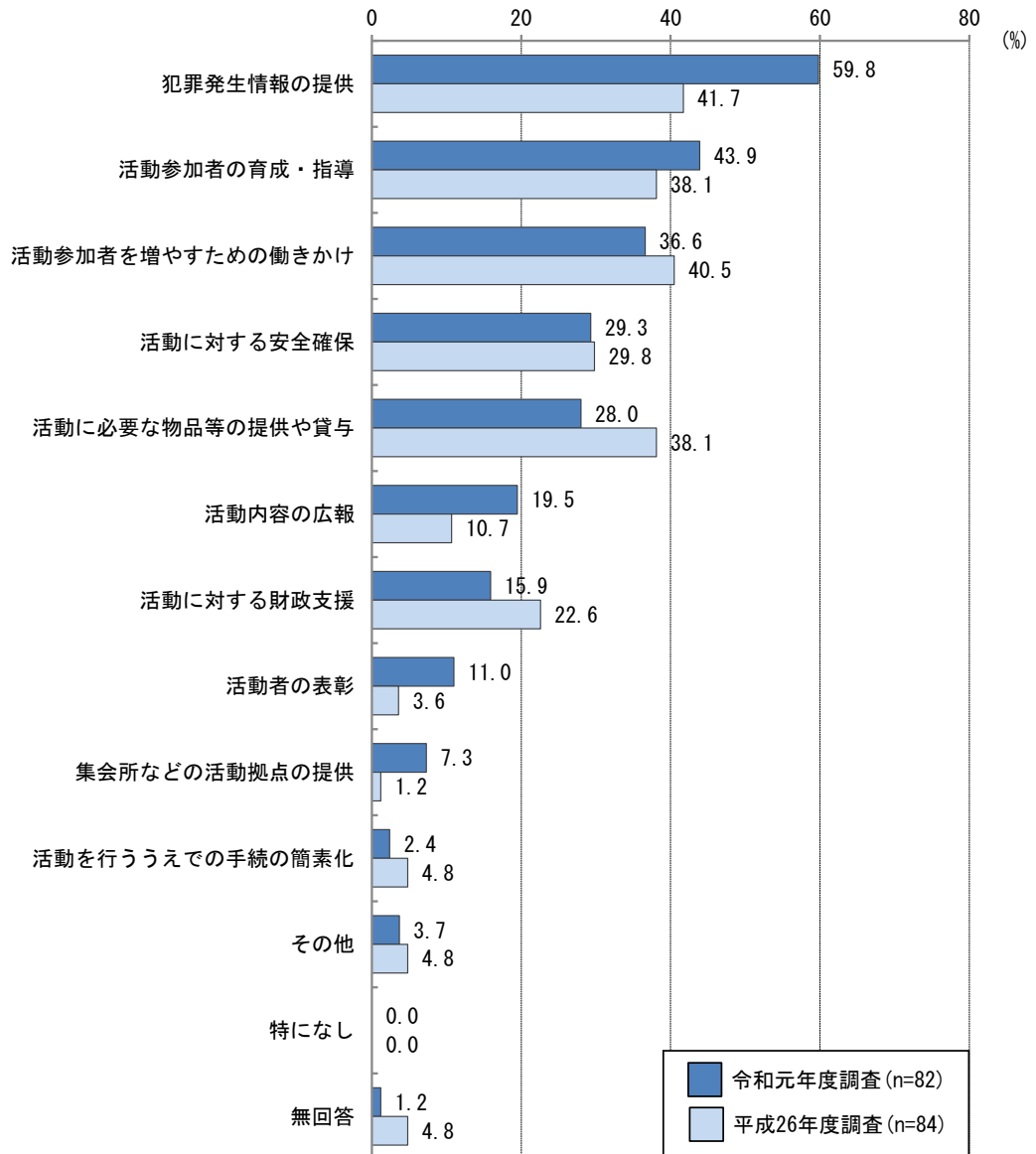
との回答は 8.0 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。一方、「防犯カメラ等の整備」との回答は 27.2 ポイント、「個人個人の防犯意識の向上」との回答は 7.0 ポイント、「地域防犯活動の活性化」との回答は 5.8 ポイント、「高齢者の安全対策」との回答は 6.7 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。

【図表 活動地域の治安を良くするために、
行政や警察が強化すれば良いと思う取組（活動地区別）】

		(%)							
		件数	子どもの安全対策	防犯カメラ等の整備	個人個人の防犯意識の向上	地域防犯活動の活性化	高齢者の安全対策	防犯情報の提供	警察による取締強化
全 体		82	45.1	45.1	42.7	41.5	34.1	29.3	17.1
活動地区別	中区	9	22.2	33.3	44.4	33.3	22.2	22.2	55.6
	東区	8	62.5	12.5	50.0	25.0	37.5	50.0	25.0
	南区	6	66.7	33.3	50.0	50.0	33.3	50.0	0.0
	西区	8	0.0	50.0	37.5	50.0	50.0	37.5	0.0
	安佐南区	20	60.0	60.0	30.0	50.0	50.0	30.0	10.0
	安佐北区	13	38.5	61.5	61.5	46.2	15.4	15.4	15.4
	安芸区	5	40.0	40.0	60.0	40.0	40.0	0.0	40.0
	佐伯区	13	53.8	38.5	30.8	30.8	23.1	30.8	7.7

活動地域の治安を良くするために、行政や警察が強化すれば良いと思う取組について、活動地区別にみると、東区、南区は「子どもの安全対策」、安佐南区は「子どもの安全対策」、「防犯カメラ等の整備」、安佐北区は「防犯カメラ等の整備」、「個人個人の防犯意識の向上」との回答が高くなっている。

問 23 地域や個人・事業者で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がどのような支援をすれば良いと思いますか。(〇は、3つ以内)



地域や個人・事業者で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援について、「犯罪発生情報の提供」との回答が 59.8%と最も高く、次いで「活動参加者の育成・指導」(43.9%)、「活動参加者を増やすための働きかけ」(36.6%) などの順となっている。

前回調査と比較すると、「犯罪発生情報の提供」との回答は 18.1 ポイント、「活動参加者の育成・指導」との回答は 5.8 ポイント、「活動内容の広報」との回答は 8.8 ポイント、「活動者の表彰」との回答は 7.4 ポイント、「集会所などの活動拠点の提供」との回答は 6.1 ポイント今回調査が前回調査を上回っている。一方、「活動に必要な物品等の提供や貸与」との回答は 10.1 ポイント、「活動に対する財政支援」との回答は 6.7 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

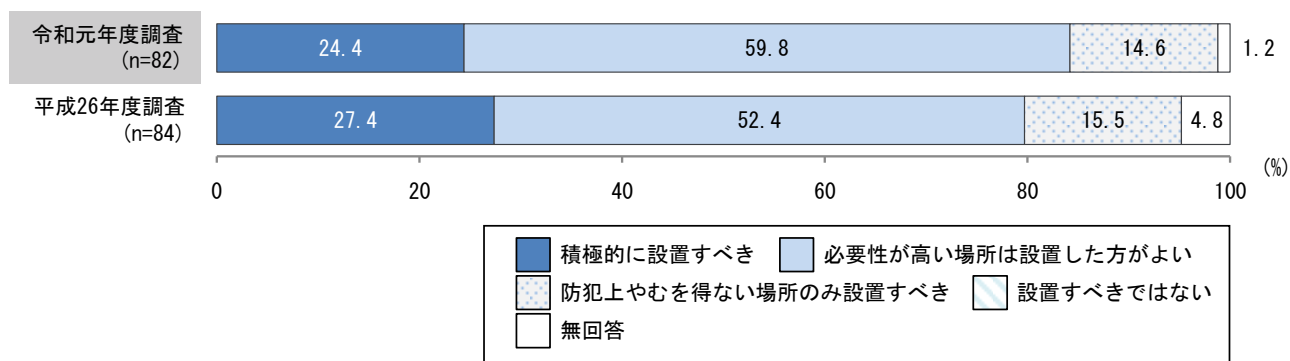
【図表 地域や個人・事業者で取り組む防犯活動に対し、
行政や警察がすれば良いと思う支援（活動地区別）】

(%)

	件 数	犯罪発生情報の提供	活動参加者の育成・指導	活動参加者の働きかけ	活動に対する安全確保	活動に必要な物品等の提供や貸与	活動内容の広報	活動に対する財政支援
全 体	82	59.8	43.9	36.6	29.3	28.0	19.5	15.9
活動地区別	中区	9	66.7	55.6	22.2	22.2	33.3	22.2
	東区	8	62.5	50.0	50.0	25.0	50.0	12.5
	南区	6	83.3	66.7	50.0	50.0	33.3	0.0
	西区	8	62.5	50.0	37.5	37.5	12.5	25.0
	安佐南区	20	75.0	35.0	35.0	30.0	20.0	25.0
	安佐北区	13	23.1	15.4	38.5	30.8	53.8	15.4
	安芸区	5	60.0	60.0	0.0	20.0	0.0	40.0
	佐伯区	13	53.8	53.8	46.2	23.1	15.4	15.4

地域や個人・事業者で取り組む防犯活動に対し、行政や警察がすれば良いと思う支援について、活動地区別にみると、中区、南区、安佐南区は「犯罪発生情報の提供」との回答が高く、他に、南区では「活動参加者の育成・指導」との回答が高くなっている。

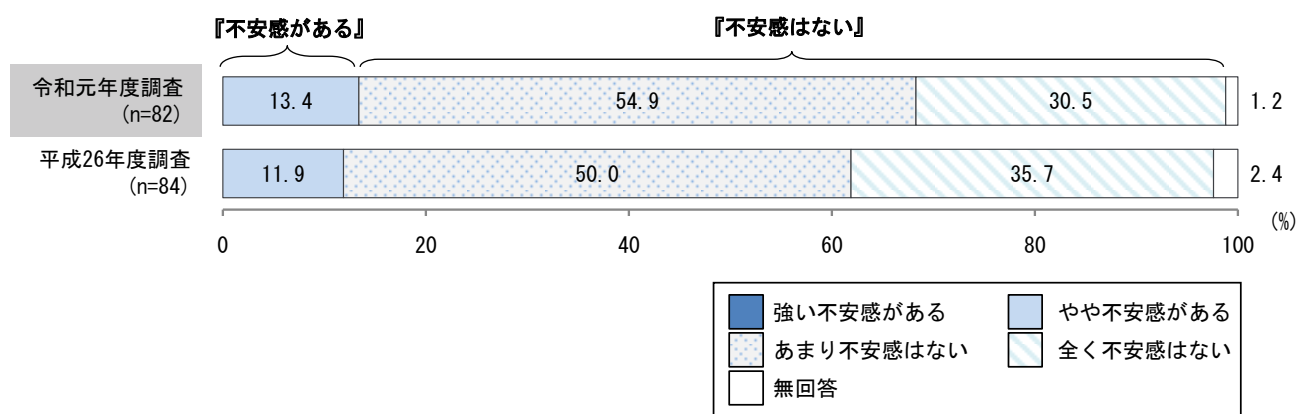
問 24 公共の場所に防犯カメラを設置することに関して、どのように思いますか。（エレベーター内や駅のホームなど特定施設内の管理のためのものは除く）（○は、1つ）



防犯カメラの設置について、「必要性が高い場所は設置した方がよい」との回答が 59.8%と最も高く、次いで「積極的に設置すべき」(24.4%)、「防犯上やむを得ない場所のみ設置すべき」(14.6%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「必要性が高い場所は設置した方がよい」との回答は今回調査が前回調査を 7.4 ポイント上回っている。

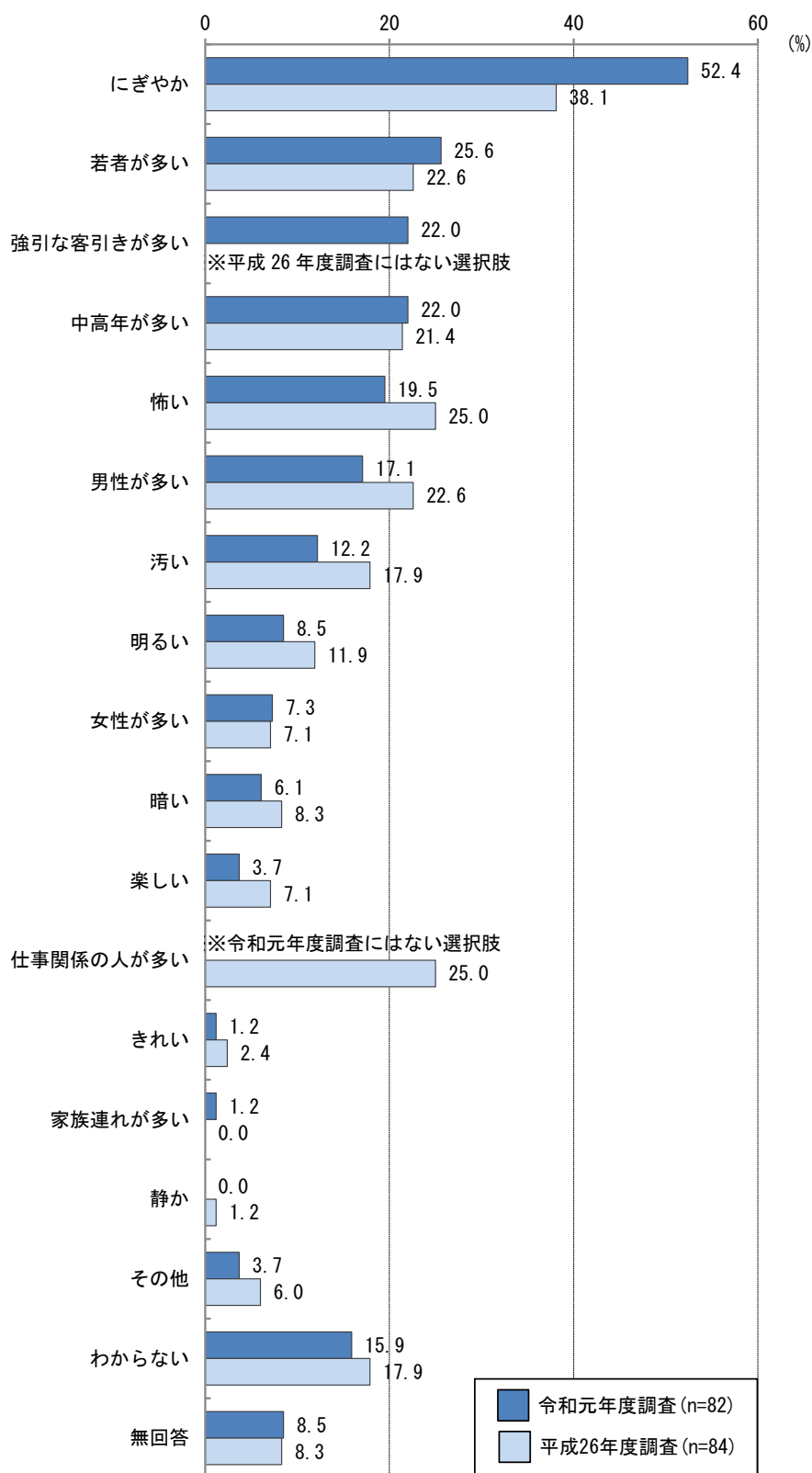
問 25 防犯カメラで撮影されることに関して、どのように思いますか。(〇は、1つ)



防犯カメラで撮影されることについて、『不安感がある』（「強い不安感がある」と「やや不安感がある」を合計した割合）との回答は13.4%、『不安感はない』（「全く不安感はない」と「あまり不安感はない」を合計した割合）との回答は85.4%となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられない。

問 26 本市では、繁華街の環境対策に取り組んでいます、流川・薬研堀地区の印象（イメージ）をお答えください。（〇は、いくつでも）



流川・薬研堀地区の印象について、「にぎやか」との回答が52.4%と最も高く、次いで「若者が多い」(25.6%)、「強引な客引きが多い」、「中高年が多い」(ともに22.0%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、「にぎやか」との回答は今回調査が前回調査を 14.3 ポイント上回っている。一方、「怖い」、「男性が多い」との回答は 5.5 ポイント、「汚い」との回答は 5.7 ポイント今回調査が前回調査を下回っている。

つまり、流川・薬研堀地区に対してにぎやかな印象を持っている団体が前回調査より多くなっている。

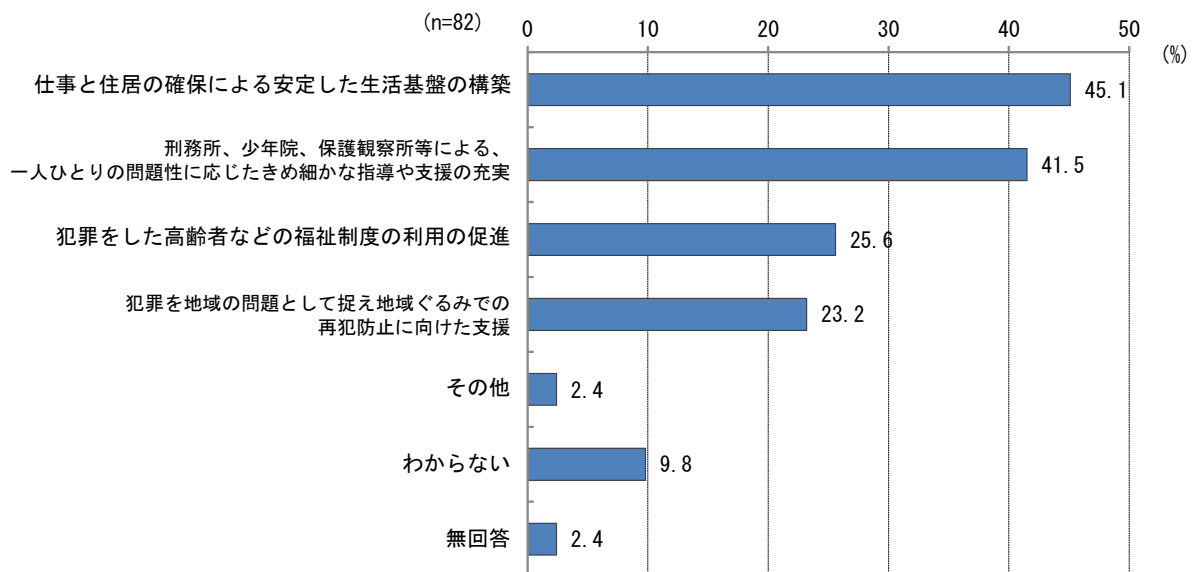
【図表 流川・薬研堀地区の印象（活動地区別）】

		(%)							
		件 数	に ぎ や か	若 者 が 多 い	強 引 な 客 引 き が 多 い	中 高 年 が 多 い	怖 い	男 性 が 多 い	汚 い
全 体		82	52.4	25.6	22.0	22.0	19.5	17.1	12.2
活 動 地 区 別	中区	9	22.2	44.4	11.1	22.2	33.3	11.1	33.3
	東区	8	25.0	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	0.0
	南区	6	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	50.0	16.7
	西区	8	62.5	62.5	37.5	37.5	25.0	12.5	25.0
	安佐南区	20	70.0	25.0	10.0	30.0	20.0	25.0	0.0
	安佐北区	13	53.8	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0
	安芸区	5	60.0	20.0	40.0	0.0	40.0	20.0	40.0
	佐伯区	13	46.2	7.7	38.5	30.8	15.4	7.7	15.4

流川・薬研堀地区の印象について、活動地区別にみると、南区、西区、安佐南区、安芸区は「にぎやか」との回答が高く、他に、西区では「若者が多い」との回答が高くなっている。

問 27 貴団体は、再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。

(○は、2つ以内)



再犯防止のために必要だと思うことについて、「仕事と住居の確保による安定した生活基盤の構築」との回答が45.1%と最も高く、次いで「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」(41.5%)、「犯罪をした高齢者などの福祉制度の利用の推進」(25.6%)などの順となっている。

【図表 再犯防止のために必要だと思うこと（団体規模別）】

		(%)										
		件数	構築 る安 事定 とした 住居 の生 活基 盤に よ	援の 充実 たき め細 かな 指導 や支	ひと りの 問題 性 に 応 じ 人	観 察所 等 に よ る 、 一 保 護	進 の 福 祉 制 度 の 利 用 の 促	再 犯 防 止 に 向 け た 支 援	て 犯 罪 を 地 域 の 問 題 と し	そ 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		82	45.1		41.5		25.6		23.2	2.4	9.8	2.4
団 体 規 模 別	1～9人	7	14.3		14.3		14.3		42.9	14.3	14.3	0.0
	10～19人	15	33.3		53.3		20.0		46.7	0.0	0.0	0.0
	20～29人	20	50.0		50.0		15.0		15.0	5.0	10.0	10.0
	30～39人	7	71.4		28.6		57.1		0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49人	7	57.1		28.6		42.9		0.0	0.0	14.3	0.0
	50～99人	15	53.3		40.0		33.3		6.7	0.0	13.3	0.0
	100人以上	5	20.0		60.0		0.0		60.0	0.0	20.0	0.0

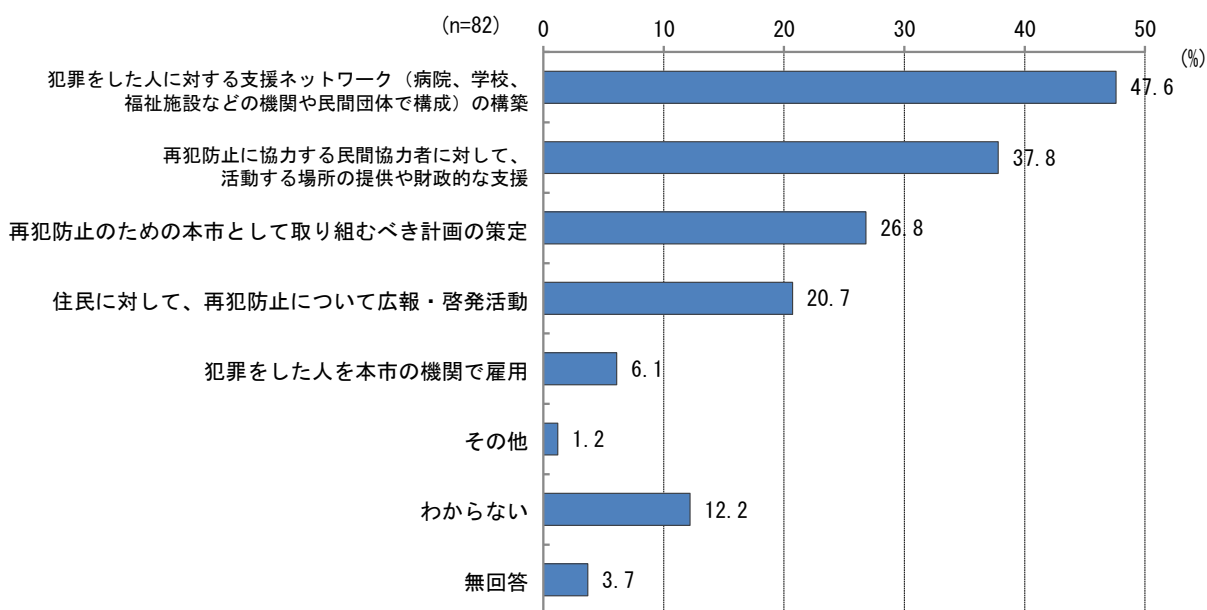
再犯防止のために必要だと思うことについて、団体規模別にみると、団体規模が10～29人の団体は「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」、20～99人の団体は「仕事と住居の確保による安定した生活基盤の構築」との回答が高く、他に、30～39人の団体は「犯罪をした高齢者などの福祉制度の利用の促進」が高くなっている。

【図表 再犯防止のために必要だと思うこと（活動地区別）】

										(%)						
		件数	構 築 安 定 し た 生 活 基 盤 の よ	仕 事 と 住 居 の 確 保 に よ	援 た き め 細 か な 指 導 や 支	ひ と り の 問 題 性 に 応 じ	観 察 所 等 に よ る 、 一 人 護	刑 務 所 、 少 年 院 、 保 護	進 の 福 祉 制 度 の 高 齢 者 の な ど	犯 罪 を し た 高 齢 者 の 支 援	再 犯 防 止 に 向 け た 支 援	犯 罪 を し た 地 域 の 問 題 と し	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
全 体		82	45.1			41.5			25.6		23.2		2.4		9.8	2.4
活 動 地 区 別	中区	9	55.6			55.6			44.4		22.2		0.0		0.0	0.0
	東区	8	50.0			62.5			0.0		12.5		0.0		12.5	0.0
	南区	6	50.0			0.0			66.7		0.0		0.0		16.7	0.0
	西区	8	37.5			75.0			12.5		25.0		0.0		0.0	0.0
	安佐南区	20	40.0			25.0			35.0		30.0		5.0		5.0	10.0
	安佐北区	13	53.8			38.5			23.1		23.1		0.0		15.4	0.0
	安芸区	5	0.0			40.0			0.0		60.0		0.0		40.0	0.0
	佐伯区	13	53.8			46.2			15.4		15.4		7.7		7.7	0.0

再犯防止のために必要だと思うことについて、活動地区別にみると、東区、西区は「刑務所、少年院、保護観察所等による、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援の充実」、南区は「犯罪をした高齢者などの福祉制度の利用の促進」との回答が高くなっている。

問 28 再犯防止のために、本市は何をするべきだと思いますか。(○は2つ以内)



再犯防止のために広島市がすべきことについて、「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）の構築」との回答が 47.6%と最も高く、次いで「再犯防止に協力する民間協力者に対して、活動する場所の提供や財政的な支援」（37.8%）、「再犯防止のための本市として取り組むべき計画の策定」（26.8%）などの順となっている。

【図表 再犯防止のために広島市がすべきこと（団体規模別）】

		件数	で構成) の構築	病 院、 学 校、 福 祉 施 設	支 援 ネ ッ ト ワ ー ク へ	犯 罪 を し た 人 に 対 す る	政 治 的 な 支 援	動 員 す る 場 所 の 提 供 や 財	再 犯 防 止 に 協 力 す る 民	画 の 策 定	再 犯 防 止 の た め の 本 市	活 動	止 に つ い て 広 報 ・ 啓 発 防	住 民 に 対 し て、 再 犯 防	機 関 で 雇 用	犯 罪 を し た 人 を 本 市 の	そ の 他	わ か ら ない	(%)
全 体																			82
団 体 規 模 別	1～9人	7	28.6	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0										
	10～19人	15	60.0	46.7	33.3	6.7	0.0	0.0	20.0										
	20～29人	20	45.0	35.0	25.0	20.0	10.0	5.0	10.0										
	30～39人	7	71.4	57.1	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0										
	40～49人	7	42.9	14.3	28.6	57.1	14.3	0.0	0.0										
	50～99人	15	26.7	40.0	26.7	26.7	0.0	0.0	20.0										
	100人以上	5	80.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0										

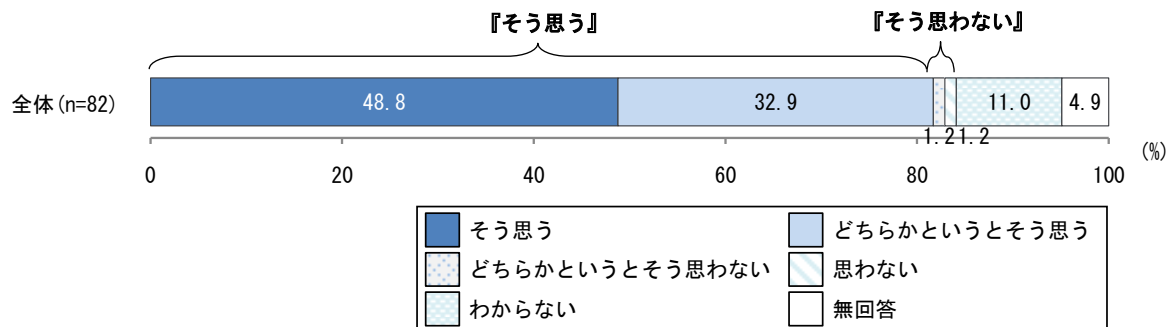
再犯防止のために広島市がすべきことについて、団体規模別にみると、団体規模が 10～19 人、30～39 人の団体は「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）の構築」、40～49 人の団体は「住民に対して、再犯防止について広報・啓発活動」との回答が高くなっている。

【図表 再犯防止のために広島市がすべきこと（活動地区別）】

(%)																	
		件数	で構成) の構築	犯罪をした人に対する 支援ネットワーク(へ)	支援助を する場所の提供や財	動的な支援	間協力者に対して、活	再犯防止に協力する民	画の策定	再犯防止のための本市計	活動	住民に対して、再犯防	止について広報・啓発	機関で雇用	犯罪をした人を本市の	その他	わからない
全 体		82		47.6			37.8		26.8		20.7		6.1		1.2		12.2
活動地区別	中区	9		55.6			44.4		55.6		0.0		0.0		0.0		11.1
	東区	8		25.0			37.5		37.5		37.5		12.5		0.0		12.5
	南区	6		50.0			16.7		33.3		33.3		0.0		0.0		16.7
	西区	8		50.0			37.5		37.5		25.0		0.0		0.0		0.0
	安佐南区	20		65.0			40.0		15.0		15.0		5.0		5.0		5.0
	安佐北区	13		46.2			46.2		15.4		30.8		7.7		0.0		7.7
	安芸区	5		40.0			40.0		0.0		20.0		0.0		0.0		40.0
佐伯区	13		30.8			30.8		30.8		15.4		15.4		0.0		23.1	

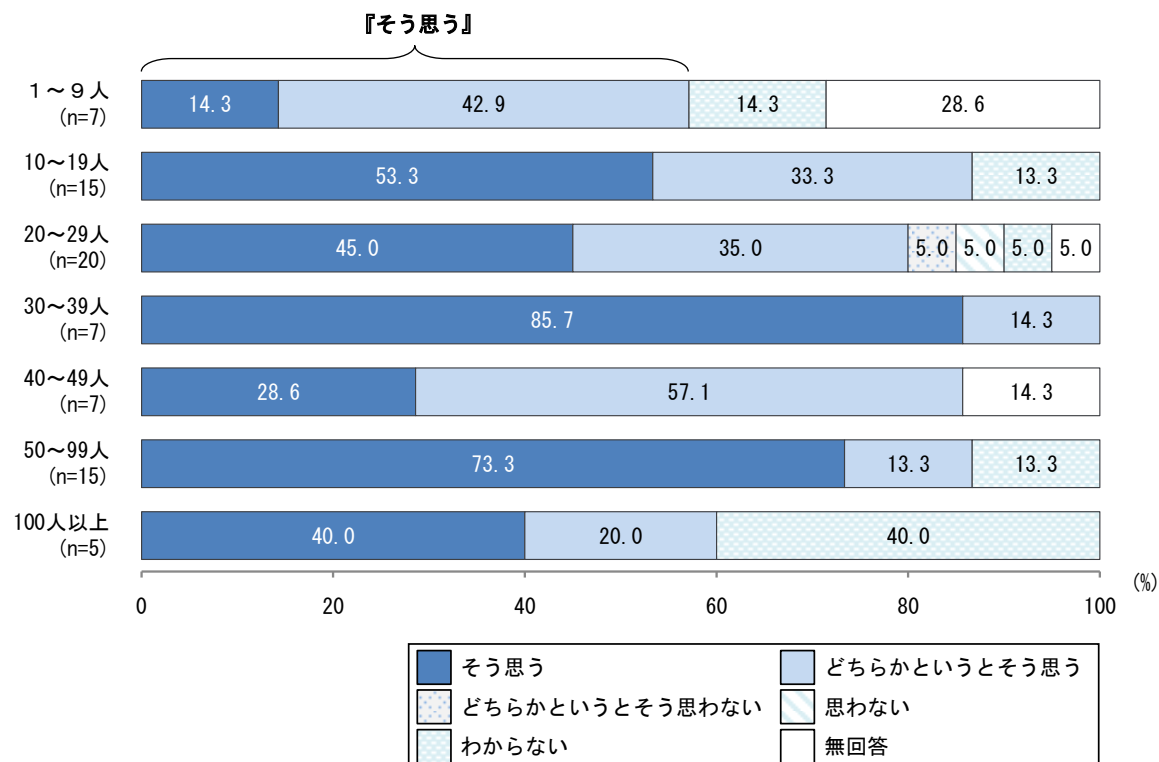
再犯防止のために広島市がすべきことについて、活動地区別にみると、中区、南区、西区、安佐南区で「犯罪をした人に対する支援ネットワーク（病院、学校、福祉施設などの機関や民間団体で構成）の構築」との回答が高く、他に、中区で「再犯防止のための本市として取り組むべき計画の策定」との回答が高くなっている。

問 29 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、どう思いますか。(〇は、1つ)



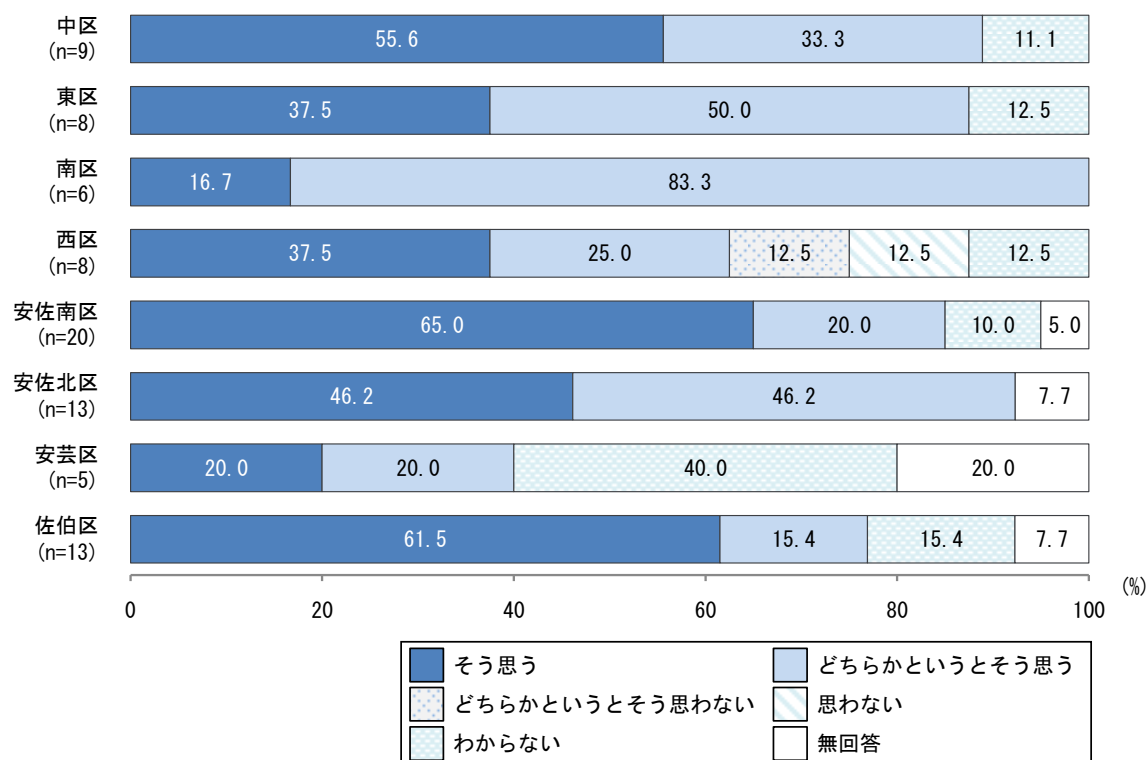
『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、『『そう思う』(「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計した割合)との回答が81.7%、『『そう思わない』(「思わない」と「どちらかというと思わない」を合計した割合)との回答が2.4%、「わからない」との回答が11.0%となっている。

【図表 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見（団体規模別）】



『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、団体規模別にみると、すべての規模の団体で『そう思う』との回答が高くなっている。

【図表 『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見（活動地区別）】



『再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である。』という意見について、活動地区別にみると、安芸区を除く地区で『そう思う』との回答が高くなっている。

III 自由意見

Ⅲ 自由意見（意見総数 22 件より抜粋）

※複数の内容を含む意見があるため、意見の合計件数と内容別件数は一致しない。

1 行政への意見・要望について（11 件）

- ・防犯カメラは町内会などの会費ではなく、市が全額補助をしたら良いと思います。
(安佐南区)
- ・できるだけ財政支援をお願いします。(東区)
- ・当町内においては、高齢化が進み約 3 人に 1 人が高齢者です。それにより訪問販売、電話による詐欺などが心配され、町内会、老人クラブ、民生委員等による情報提供がなされていますが、市や区、警察などにより充実した指導があれば良いと思います。(南区)
- ・地域防犯ボランティア活動に参加し活躍してくれる人が見当たらず困っています。この先、80 歳代の高齢者が中心の団体となり日々の活動が不可能になる恐れがあります。何か適切な方策を教えて頂ければ助かります。よろしくお願いします。(西区)

2 活動内容について（5 件）

- ・平和都市“ひろしま”をアピールする広島市にとって安全、安心なまちづくりは一層大切なことかと考えます。その一端として各地域で見守り活動や取組は重要であると思います。沼田合同庁舎(火山館)もでき、狭い市道に人や車も多くなり、子どもから高齢者の安全に努めたいと思います。ご指導、ご協力をお願い致します。(安佐南区)
- ・構成員について、各町内から個人または町内会組織から参加されており、代表者の把握すら困難な状況ですが、積極的に参加されています。今後、もう少し組織的に運営できればと思っています。(安佐北区)

3 その他の意見について（7 件）

- ・子どもが夜遅くまで街で遊んでいるところを見かける。特に小学生低学年を連れている親が増えている。こういった小学生がいずれは、中学生、高校生、大人になって、夜遅くまで遊ぶようになると思うので、親の教育が必要になると思う。(中区)
- ・自治会（町内会）加入者減少に伴う、広報活動、活動費、防犯活動参加者の減少について。自治会加入者は現存 60.0%を割り、年々減る傾向にある。そのため、広報活動が隔々まで行き届かず、特定詐欺の被害者となる。また、加入者減少による活動費が少なくなり青色パトロールの燃料代にも困っている。そして、町内会員に対して半強制的に指名していた役員が辞退、あるいは役員になるのを嫌がっての町内会不加入者が増加している。(安佐北区)

名 称 広島市安全なまちづくりに関する
地域防犯活動団体アンケート調査報告書

発 行 広島市市民局市民安全推進課

所 在 地 〒730 - 8586 広島市中区国泰寺町一丁目 6-34
電話 082-504-2714
FAX 082-504-2712

発行年月 令和2年3月

登録番号 広C2-2019-520